

烏帽子会会報

2017年秋号 Vol.63



福岡大学病院新館より福岡大学医学部研究棟を望む

- | | |
|--------------|-----|
| ■ 会長挨拶 | 3p |
| ■ 研究奨励賞論文抄録 | 7p |
| ■ 烏帽子会賞受賞の言葉 | 39p |

福岡大学医学部同窓会

目 次

・ 大学首脳人事	3
・ 会長挨拶	高木 忠博 3
・ 総会報告	
第 36 回烏帽子会総会報告	下地 栄 壮 4
・ 研究奨励賞	
平成 29 年度研究奨励賞選考報告	松 永 彰 5
平成 29 年度研究奨励賞受賞者名簿	6
・ 平成 29 年度授賞論文抄録	
Fibrinogen level on admission is a predictor for massive transfusion in patients with severe blunt trauma: Analyses of a retrospective multicentre observational study (論文)	仲 村 佳 彦 7
Augmented Growth Hormone Secretion and Stat3 Phosphorylation in an Aryl Hydrocarbon Receptor Interacting Protein (AIP)-Disrupted Somatotroph Cell Line (論文)	福 田 高 士 8
The parathyroid hormone family member TIP39 interacts with sarco/endoplasmic reticulum Ca ²⁺ -ATPase activity by influencing calcium homeostasis (論文)	佐 藤 絵 美 8
C-MYC and its main ubiquitin ligase, FBXW7, influence cell proliferation and prognosis in adult T-cell leukemia/lymphoma (論文)	三 橋 泰 仁 9
Extending magnifying NBI diagnosis of intestinal metaplasia in the stomach: the white opaque substance marker (論文)	金 光 高 雄 9
・ 平成 30 年度研究奨励賞募集要項／在外研修援助金募集要項	10
・ 平成 30 年医学部医学科入学試験の要点	11
・ 平成 28 年度評議員会議事録	12
・ 学生会報告	
学生会立ち上げについて	小 玉 正 太 18
学生会会長挨拶	西 泊 翔 太 18
・ 学会開催報告	
第 14 回アジア大洋州小児神経学会議のご報告	廣 瀬 伸 一 20
第 34 回日本呼吸器外科学会総会	岩 崎 昭 憲 21
第 103 回日本消化器内視鏡学会九州支部例会を終えて	植 木 敏 晴 22
第 50 回日本胸部外科学会九州地方会総会	岩 崎 昭 憲 23
第 59 回日本平滑筋学会総会を終えて	井 上 隆 司 24
・ 在外研修報告	
University of California Irvine に留学して	末 松 保 憲 25
Massachusetts General Hospital (MGH) への留学	宮 部 美 圭 26
タイのコンケン大学に留学して	野 中 裕 文 27
ハーバード MGH での貴重な体験	野見山 櫻 子 28
・ 学生対策報告	
平成 29 年度烏帽子会主催福岡大学医学部／M4 年生激励会を終えて	竹 下 盛 重 32
M4 激励会	花 岡 勝 蔵 33
医学科 1 年生 ケーシー白衣授与式	安 元 佐 和 34
新入生歓迎会	小 玉 正 太 35
・ 会員寄稿	
女子バスケットボール部／創立 31 周年記念パーティー	正 木 稔 子 36
・ キャンパスだより	
烏帽子会賞受賞者名簿	39
西医体個人準優勝のご報告	柳 邊 崇 志 39
烏帽子会賞を受賞して	中 島 史 暁 40
・ 訃報	
曾田豊二先生を偲んで	坂 田 俊 文 41
田原春夫先生を偲んで	石 井 龍 42
種子田洋史先生を偲んで	御 厨 学 43
・ 医学部同窓会諸表／医局長・医長名簿	44～46
・ 教育職員人事	47
・ 編集後記	47

同窓会ホームページ共通 ID、パスワード

ID : eboshikai
パスワード : fukudai1 (数字)



ホームページ用二次元
バーコード

大学首脳人事

大学首脳人事

(関係分抜粋・就任はいずれも12月1日)

学 長	山 口 政 俊 (薬学部)
副学長	黒 瀬 秀 樹 (理学部／教学担当)
	中 川 誠 士 (商学部／財政担当)
	西 嶋 喜代人 (工学部／研究・情報担当)
	大慈弥 裕 之 (医学部・形成外科学／医療担当)
医学部長	朔 啓二郎 (総合医学研究センター)
福岡大学病院長	井 上 亨 (脳神経外科学)
福岡大学筑紫病院長	向 野 利 寛 (臨床医学研究センター)

会長挨拶

総会に寄せて

烏帽子会 会長 高 木 忠 博 (1回生 脳神経外科クリニック高木 院長)



我福大医学部は、卒業生を送り出して今年40年になり、仲間も4,426人になりました。又、同窓会上の歴史的なイベントが、次々に生まれています。その一つは、来年121年の歴史を誇る大変権威ある「日本小児科学会」を3回生の廣瀬教授が主宰予定ですし、7回生の佐賀大学の浅見診療教授が、5,000人以上の大規模な「日本リハビリテーション学会」を女性としては初めて主宰する事です。権威ある学会を主宰する人材が次々に生まれている状況は、福大は堅実に発展しているのではないかと思います。これからも次々に医学の臨床、教育、研究の世界で全国的に活躍してくれる人達が育って行くと思います。同窓会と云う組織は、母校と人材(仲間)を皆でしっかりと応援、サポート出来る力を持った組織に成長して行く事が大切と

思います。

それから、来年は「学年制」の総会が始まって21年になります。最初の担当は、1回生ですが、将来を考え10年目の後輩である11回生と共同主催での学年同窓会は始まりました。来年は、21回生と31回生が担当になりますが、1が付く学年が遂に(1、11、21、31)4学年に増えました。そして来年は、遂に41回生が卒業し仲間に加わります。「貴方何回生?」の質問は、最初の頃の学年迄は覚えていますが数字が増えると共に段々と「エーと!何回生だったか?」となりますが、来年は、1の付く学年が5学年に為りますので21回生を中心に1が付く学年で徐々に仲間を募ってミニ同窓会をしたいと思います。総会が仲間の応援と同級生との親睦を深められたらと思います。来年は5学年が同じ1で揃いますが、10-20年経つと6-7学年が揃う事になりますが、その時は多分同窓生総数は、7000人弱で頭打ちに為ると思います。それは、その頃は歴史を重ね入学生と物故者数が殆ど同じになり卒業生が増えないからです。その頃には、臨床、教育、研究が自給自足出来る医学部に成長していきたいと思います。

総会報告

第36回烏帽子会総会報告

第36回烏帽子会総会 理事 下地栄壮 (20回生)

2017年7月1日(土)に『ソラリア西鉄ホテル』に於いて『第36回烏帽子会総会・懇親会』を無事に開催することができ、ホッとしています。アドバイスやお手伝いをして頂きました理事会の先生方、事務局長の小山久美さん、21回生の北島研先生、心臓・血管内科学講座のスタッフの皆様及び関係者の方々に、紙面をお借りして深く感謝致します。

去年の烏帽子会総会で次回幹事に指名された後随分不安になり、“同級生に助けて貰うしかない”と幹事になってくれる様声掛けしたところ、安部洋君・岩田敦君・竹内一馬君・林田好生君・光藤利通君が快諾してくれました。定期的に幹事会を開き、多くの同級生に参加して楽しんで貰うにはどうしたら良いか話し合いました。各地区に責任者を置いて声掛けをして貰うという案で、山口支部を伊藤真一君、熊本支部を菅村真由美さん、鹿児島支部を重信秀峰君にお願いしました。また、総会での特別講演を岡本嘉一君と馬場康彦君、受付を国武(宮本)裕子さんと吉田(大久保)亮子さん、総会の書記を西佳子さんをお願いしました。今振り返って、多くの同級生にお願いして手作り感のある総会になり、本当に良かったと思っ

ています。有難う!!

一番心配だったのは運営費です。運営費は担当回生が責任を持つため、赤字になることが不安でした。参加人数に関わらず、会場費などの固定費は掛かります。例年の収支報告を見ると、20回生50名程度の会費納入が必要と考えられました。天候などで急遽参加できなくなる場合のことを考え、先に振り込みをお願いし、最終的には71名が納入してくれました。総会出席者は61名で、過去の当番回生の出席者数で最多でした。懇親会の後、ソラリア西鉄ホテル17階の『トランスブルー』で二次会、中洲の『es ROOFTOP GARDEN』に移動し三次会をしました。三次会は20名程度の参加を予想していましたが、何と45名の参加で、“さすが20回生”とまとまりの良さを見せ、深夜3時頃まで盛り上がりました。

卒業以来初めて会った同級生も多かったですが、意外に変わっておらず、“誰やお前?”という人はいなかったですね。久しぶりに会って“やっぱり同級生はいいな”と感じました。次は10年後に同窓会を企画しましょう。今回参加出来なかった人は、是非参加して下さい。



幹事の20回生の先生方 / 平成29年7月1日 於ソラリア西鉄ホテル



総会風景



岡本嘉一先生 講演会風景



馬場康彦先生 講演会風景



乾杯 朔 医学部長



ゲストの特別会員の先生方



懇親会風景



懇親会風景



恒例の輪になって校歌斉唱



20 回生より 21 回生北島研先生へ幹事引継ぎ



万歳三唱 10 回生 坂田先生

研究奨励賞

平成 29 年度 研究奨励賞選考報告

選考委員長 松 永 彰 (3 回生)

今回の研究奨励賞選考まで、3 回生の松永 彰が選考委員長で行いました。

同窓の教授 20 名が選考委員となり審査を行いました。まず、昨年同様に選考委員全員で、研究奨励賞応募論文に対して相対評価をして頂き、集計したものを点数化して順位を決定し、それをもとに選考を行いました。選考委員会では、出席された委員の先生全員がそれぞれご自分の意見を述べ、時間をかけて選考を行いました。今年度の研究奨励賞には、論文での応募が 11 件、計画での応募が 1 件、計 12 件の応募がありました。今年の選考も難航しました。福岡大学が主体となり実施された研究を優先するとの方針が 2 年前に出されていましたが、他大学に行って頑張っている人を外す必要はないという意見、最近では留学する人が減っており留学を奨励する意味でも留学中の論文もある程度採用しても良いのではとの意見、論文の内容をまず検討してから福岡大学か他大学での研究かを考慮しても良いのではないかとの

意見もあり、今回は選考委員が自分の持ち点の中でそれらを踏まえて評価して頂くこととしました。また、優秀な論文であれば再授与は問題ないことも確認しました。更に論文と計画は別に選考した方が良いとの意見もあり、今後検討することとしました。

平成 29 年度研究奨励賞・優秀賞は、仲村佳彦先生、福田高士先生、三橋泰仁先生、佐藤絵美先生、金光高雄先生の 5 名の先生方が受賞されました。応募された計画も非常に良い内容でしたが、英文研究論文での応募の内容が素晴らしかったため今回の優秀賞は論文 5 編が選出されました。どの論文も甲乙付けがたく、素晴らしい論文で、インパクトファクター (IF) をもとに評価しているわけではありませんが、結果的に選出された論文は IF 2.4 以上のジャーナルに掲載されており、国際的にも高レベルの研究論文でした。

今後も毎年、このように素晴らしい研究論文、計画の応募が続くことを願っています。

● 平成 29 年度 研究奨励賞受賞者名簿 ●

救急救命九州研修所 仲 村 佳 彦 (正会員 / 27 回生)	Fibrinogen level on admission is a predictor for massive transfusion in patients with severe blunt trauma:Analyses of a retrospective multicentre observational study. (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科 福大研究生 福 田 高 士 (正会員 / 32 回生)	Augmented Growth Hormone Secretion and Stat3 Phosphorylation in an Aryl Hydrocarbon Receptor Interacting Protein (AIP)-Disrupted Somatotroph Cell Line (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 微生物・免疫学 福大助教 佐 藤 絵 美 (正会員 / 30 回生)	The parathyroid family Member TIP39 interacts with sarco/endoplasmic reticulum Ca ²⁺ -ATPase activity by influencing calcium homeostasis (論文) / 優秀賞
福岡大学医学部 病理学 福大大学院生 三 橋 泰 仁 (正会員 / 33 回生)	C-MYC and its main ubiquitin ligase, FBXW7, influence cell proliferation and prognosis in adult T-cell leukemia/lymphoma (論文) / 優秀賞
福岡大学筑紫病院 消化器内科 福大助手 金 光 高 雄 (準会員)	Extending magnifying NBI diagnosis of intestinal metaplasia in the stomach:the white opaque substance marker (論文) / 優秀賞



左から福田先生、金光先生、佐藤先生、三橋先生、仲村先生

平成 29 年度授賞論文抄録

Fibrinogen level on admission is a predictor for massive transfusion in patients with severe blunt trauma: Analyses of a retrospective multicentre observational study (論文)

救急救命九州研修所 仲村佳彦 (準会員)



【はじめに】外傷患者における受傷早期の血餅形成において fibrinogen(Fbg)は重要な役割を果たしているが、Fbg 値を用いた massive transfusion (MT) の予測に関する、多変量ロジスティック回帰分析の報告は少ない。そこで我々は来院時の Fbg 値が外傷患者において MT の予測因子になり得るか否かを検討した。【方法】本邦における 15 の 3 次救急医療機関による多施設後ろ向き観察研究を行った (The Japanese Observational Study for Coagulation and Thrombolysis in Early Trauma; J-OCTET)。J-OCTET 研究に登録された鈍的重症外傷を対象とした。対象患者を MT と non-MT 群に分類し、目的変数を MT の有無、説明変数を年齢、性別、搬入時バイタルサイン、Glasgow Coma Scale(GCS)、Fbg 値とし、多変量ロジスティック回帰分析を行い、MT 予測因子を抽出した。さらに、抽出した項目について、receiver operating

characteristic 解析を行い、Youden index にて optimal cut-off 値を算出した。尚、本検討における MT とは搬入後 24 時間以内に濃厚赤血球製剤が 10 単位以上投与されたものまたは搬入後 24 時間以内の出血死と定義した。【結果】速い心拍数 (per 10 bpm) [odds ratio [OR] 1.480, 95% confidence interval [CI] 1.326-1.668], 高い収縮期血圧 (per 10 mmHg) [OR 0.851, 95% CI 0.789-0.914], 高い GCS スコア (OR 0.907, 95% CI 0.855-0.962)、Fbg 高値 (per 10 mg/dL) (OR 0.931, 95% CI 0.898-0.963) が MT の独立予測因子であった。MT に対する optimal cut-off 値は心拍数 100bpm 以上 (感度 62.4%, 特異度 79.8%), 収縮期血圧 120mmHg 以下 (感度 61.5%, 特異度 70.5%), GCS12 点以下 (感度 63.3%, 特異度 63.6%)、Fbg 190 mg/dL 以下 (感度 55.1%, 特異度 78.6%) であった。【結語】来院時バイタルサイン、GCS、Fbg 値は MT の予測因子になり得ると考えられ、今後 MT の予測モデルを検討する際は Fbg 値も検討すべきと考えられた。(Injury. 2017;48(3):674-679.)

Augmented Growth Hormone Secretion and Stat3 Phosphorylation in an Aryl Hydrocarbon Receptor Interacting Protein (AIP)-Disrupted Somatotroph Cell Line (論文)

福岡大学医学部 内分泌・糖尿病内科 福田 高士 (32 回生)



【目的】 家族性下垂体腺腫においてがん抑制遺伝子である Aryl hydrocarbon receptor interacting protein (AIP) の遺伝子変異が報告されている。GH 産生腫瘍における AIP 遺伝子機能喪失の影響について明らかにする為、AIP の機能を喪失させた細胞株の樹立

を試みた。

【方法】 ラット下垂体腫瘍細胞株 GH3 の Aip 遺伝子を CRISPR/Cas9 を用いたゲノム編集によってノックアウトした細胞株 (GH3-FTY) を樹立し、細胞増殖および GH 産生能についてオリジナル細胞株との比較検討を行った。

【結果】 GH3-FTY は細胞増殖が亢進し、GH 分泌の著明な増加、ソマトスタチンに対する感受性低下を示した。ウェスタンブロットでは Stat3 のリン酸化が増加しており細胞増殖能亢進、GH 分泌増加の機序の一つと考えられた。ヌードマウス皮下への細胞接種によるマウスの解析結果より、GH3-FTY は GH3 と比較し腫瘍重量および腫瘍サイズが増大し、血中 GH 濃度の著明な上昇とマウス体重及び体長の有意な増加を認めた。

【結語】 AIP の機能喪失により、強力な GH 過剰産生細胞株を樹立した。本細胞の性状解析から、GH 産生腫瘍では、AIP 遺伝子変異による AIP の発現低下が細胞増殖および GH 分泌を増加させた。そして Stat3 のリン酸化増加がその機序の一因なると考えられた。

The parathyroid hormone family member TIP39 interacts with sarco/endoplasmic reticulum Ca^{2+} -ATPase activity by influencing calcium homeostasis (論文)

福岡大学医学部 微生物・免疫学 佐藤 絵美 (30 回生)



皮膚はおもに 2 つの方法で私たちの身体を守っています。1 つは表皮細胞同士の密な接着による外敵のブロック、2 つ目は免疫による外敵の排除です。Ca²⁺ は細胞間接着を保つ重要な因子で Ca²⁺ ポンプ関連遺伝子 (ATP2A2) に変異を持つ Darier 病などの皮膚疾患では表皮細胞間の接着異常が生じ物理的ストレスが生じやすい間擦部を中心として皮疹ができます。

またその皮疹部には単純ヘルペスウイルスなどが頻繁に 2 次感染を起こし難治なことが知られています。私は留学先の研究室で副甲状腺ホルモンファミリーの 1 つである TIP39 が表皮細胞内の Ca²⁺ を調節し表皮の分化に関わる旨を報告し今回の論文でこのホルモンが

ATP2A2 遺伝子変異を持つ表皮にどのような影響を与えるか検証しました。まず通常の 2 次元培養した表皮細胞に ATP2A2 遺伝子の siRNA を導入し、そのノックダウン (KD) 細胞を用いて三次元表皮モデルを構築しました。その結果 ATP2A2 遺伝子の抑制は三次元表皮の分化異常や接着異常をコントロール群に比較して強く誘導することがわかりました。また前の論文で私は TIP39 が小胞体に貯蔵されている Ca²⁺ を介して安定的に表皮細胞内 Ca²⁺ を増加させることを報告しましたが ATP2A2 KD 細胞では TIP39 による細胞内 Ca²⁺ 反応が不安定であることがわかりました。このことから TIP39 は ATP2A2 遺伝子変異のある三次元表皮モデルにおいて表皮の分化異常を促進することなく細胞間接着異常をやや改善することを明らかにしました。

C-MYC and its main ubiquitin ligase, FBXW7, influence cell proliferation and prognosis in adult T-cell leukemia/lymphoma (論文)

福岡大学医学部 病理学 三 橋 泰 仁 (33 回生)



B 細胞性リンパ腫 (びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫) において癌遺伝子である *C-MYC* の発現が予後不良因子であることが近年報告されているが、これまでに T 細胞性リンパ腫における *C-MYC* の発現と予後に関する報告はない。

成人 T 細胞性白血病 / リンパ腫 (以下、ATLL) には 4 つの臨床病型 (くすぶり型、慢性型、リンパ腫型、急性型) が存在し、病型により予後が異なる。くすぶり型と慢性型は慢性の経過をとり比較的予後良好であるが、リンパ腫型と急性型は極めて不良である。

我々は、137 例の ATLL を対象に、4 病型間での *C-MYC* とそのユビキチン化に関わる *FBXW7* の発現を蛋白レベル (免疫組織化学染色法: IHC)、mRNA レベル (Real-time PCR 法) で測定し検討した。さらに *C-*

MYC や *FBXW7* の発現と予後との関係について解析を行った。また FISH 法を用いて遺伝子レベルで *C-MYC* の発現をみた。

結果: 高 *C-MYC* IHC ($\geq 50\%$) 群は、リンパ腫型と急性型ではそれぞれ 78.7% (48/61 例)、64.9% (24/37 例) であるのに対し、くすぶり型 (3.6%) と慢性型 (9.1%) では有意に低かった ($P < 0.01$)。また高 *C-MYC* mRNA (≥ 7.5) 群は、リンパ腫型・急性型と比べてくすぶり型において有意に低かった ($P < 0.01$)。また、*FBXW7* の発現は蛋白および mRNA レベル両方において、リンパ腫型に対してくすぶり型で有意に高かった ($P < 0.01$)。予後解析において、高 *C-MYC* IHC、高 *C-MYC* mRNA、低 *FBXW7* IHC ($< 50\%$)、低 *FBXW7* mRNA (< 0.17) 群は有意に予後不良であった (それぞれ、 $P=0.0004$ 、 $P=0.033$ 、 $P=0.0006$ 、 $P=0.016$)。

結論: ATLL において、*C-MYC* や *FBXW7* の発現を病理組織学的に検討することは、臨床病型と同様に、予後を推定する上で有用であると考えられた。

Extending magnifying NBI diagnosis of intestinal metaplasia in the stomach: the white opaque substance marker (論文)

福岡大学筑紫病院 消化器内科 金 光 高 雄 (準会員)



White opaque substance (WOS) と Light blue crest (LBC) を指標に用いた NBI 併用拡大内視鏡による胃腸上皮化生の診断能 - パイロット試験 -

【背景】胃の腸上皮化生は分化型胃癌発生のリスクと関連している。腸上皮化生を内視鏡的に診断することは重要であるが、通常の内視鏡観察では困難とされてきた。NBI 併用拡大内視鏡 (以下 M-NBI) を用いて視覚化される Light blue crest (LBC) は腸上皮化生を内視鏡により診断するための有用なマーカーと広く知られている。また、拡大内視鏡により視覚化される white opaque substance (WOS) も腸上皮化生に認め

られる。しかし、WOS の腸上皮化生に対する診断能を求めた研究はない。本研究の目的は胃拡大内視鏡にて観察される WOS の存在が、LBC と同様に腸上皮化生のマーカーとなりうるか否か明らかにすることであった。【対象と方法】2014 年 7 月から 12 月の期間内に M-NBI を施行された連続する 40 症例を対象とした。本研究の主要評価項目は、M-NBI により観察される WOS と LBC 陽性粘膜の組織学的腸上皮化生に対する診断能を求めることであった。【結果】WOS の存在が組織学的腸上皮化生を診断する感度、特異度は、それぞれ、50.0%、100.0% であった。一方、LBC については、それぞれ、62.5%、93.8% であった。【結論】M-NBI で観察される WOS は、LBC と同様に組織学的腸上皮化生を診断するのに非常に有用な内視鏡のマーカーである。

られる。しかし、WOS の腸上皮化生に対する診断能を求めた研究はない。本研究の目的は胃拡大内視鏡にて観察される WOS の存在が、LBC と同様に腸上皮化生のマーカーとなりうるか否か明らかにすることであった。

【対象と方法】2014 年 7 月から 12 月の期間内に M-NBI を施行された連続する 40 症例を対象とした。本研究の主要評価項目は、M-NBI により観察される WOS と LBC 陽性粘膜の組織学的腸上皮化生に対する診断能を求めることであった。【結果】WOS の存在が組織学的腸上皮化生を診断する感度、特異度は、それぞれ、50.0%、100.0% であった。一方、LBC については、それぞれ、62.5%、93.8% であった。【結論】M-NBI で観察される WOS は、LBC と同様に組織学的腸上皮化生を診断するのに非常に有用な内視鏡のマーカーである。

平成 30 年度 福岡大学医学部同窓会

研究奨励賞募集要項

対 象：正会員及び準会員で、40 才未満の者または学部卒業後 10 年未満の者
(本学会費完納を条件とする)

研究課題：医学に関するものであれば自由 (医学に関する研究計画又は研究論文)

申請方法：所定の申請書による (所定欄に支部長推薦を要す)

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032 Fax 092-865-9484

締 切：平成 30 年 4 月 30 日 (月)

賞状・賞金：奨励賞 (優秀論文賞を含む) 5 件以内

発表及び表彰：平成 30 年 7 月 7 日 (月)、第 37 回同窓会総会席上 必ず出席すること

そ の 他：①論文受賞者は抄録を提出すること
計画受賞者は 1 年後研究成果報告書を提出すること
②申請書は同窓会事務局に請求又は同窓会ホームページからダウンロードのこと
③申請書はワープロで記載し、過去の研究業績 (原著、著書、症例報告、学会発表)、
研究の独創性・重要性を十分に書くこと

※準会員の方もご応募ください。

福岡大学医学部同窓会

在外研修援助金 募集要項

①長期研修

対 象：正会員、準会員 (本学会費完納を条件とする) で医学の研究または医療技術の習得のため、
3 ヶ月以上外国に留学する者

申請方法：所定の申請書により留学出発 3 ヶ月前までに提出のこと

提出先：〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1
福岡大学医学部同窓会事務局
TEL 092-865-6353 (直通) 代表 092-801-1011 内線 3032
FAX 092-865-9484

援助金：1 件 20 万円を限度とし、年間 5 件以内

発表：本人に文書にて連絡

そ の 他：①受給者は帰国後その成果を同窓会会報に発表する事
②申請書は同窓会事務局に請求又は烏帽子会ホームページからダウンロードの事
③研修中に生じた問題については同窓会は関与しない

※なお在外研究援助金をうけ留学している者は、出来る限り学生会員海外研修助成事賛同し、
渡航研修する受け入れ側施設担当者として、協力する事が望ましい。

平成 30 年 医学部医学科入学試験の要点

	A 方式推薦 (H29.3 月卒業者 H30.3 月卒見込者)	※地域枠推薦	大学入試センター試験 利用入試	一般入試系統別 一次選考	センター試験利用入試二次選考 一般入試系統別二次選考
出願期間	平成 29 年 11 月 1 日(水) ～ 11 月 9 日(木)	平成 29 年 11 月 1 日(水) ～ 11 月 9 日(木)	平成 30 年 1 月 5 日(金) ～ 12 日(金)	平成 30 年 1 月 5 日(金) ～ 16 日(火)	
試験日	平成 29 年 11 月 26 日(日)	平成 29 年 11 月 26 日(日)	大学入試センター試験 平成 30 年 1 月 13 日(土)・14 日(日)	平成 30 年 2 月 2 日(金)	平成 30 年 2 月 14 日(水)
試験科目	外国語(英語)、数学、 面接、調査書	外国語(英語)、数学、 面接、調査書	外国語、国語、数学、 理科(2 科目)	外国語、数学、理科 (2 科目)、小論文	面接、調査書
募集人員	20 人	10 人	10 人	70 人	
合格発表	平成 29 年 12 月 5 日(火)	平成 29 年 12 月 5 日(火)	一次合格： 平成 30 年 2 月 7 日(水)	平成 30 年 2 月 7 日(水)	平成 30 年 2 月 22 日(木)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 入学申込金締切／平成 29 年 12 月 18 日(月) 入学手続き締切／平成 30 年 3 月 9 日(金) </div>					追加合格 平成 30 年 2 月 22 日(木)の 二次合格発表と同時に、 追加合格予定者に追加合 格予定順位が通知されま す。その中から 3 月 31 日 までに追加合格者を決定 し、本人に通知されます。 入学申込金締切 (平成 30 年 3 月 1 日) 入学手続き締切 (平成 30 年 3 月 9 日)
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>福大医学部医学科を受験されるお子様のお名前をお教え下さい。</p> <p>烏帽子会では毎年、福大医学部を受験される同窓生のお子様のお名前をお尋ね しております。大学によっては同窓生子女の合格者数が入学定員の半数に迫る 大学もあるようですが、本学ではまだ 10 数名、入学定員の 10% 台に過ぎませ せん。つきましては、色々の参考にしたいと考えていますので、お差し支えな ければ受験されるお子様のお名前を下記あてお知らせください。</p> <p>TEL: 092-865-6353 FAX: 092-865-9484 E-mail: eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp 〒 814-0180 福岡市城南区七隈 7-45-1 福岡大学医学部同窓会</p> </div>					

※地域枠推薦該当者

- ①九州(沖縄を含む)・山口各県内に所在する高等学校または中等教育学校の出身者
- ②出願時において、本人または保護者(親など)が九州(沖縄を含む)・山口各県内に居住する者
- ③高等学校または中等教育学校を平成 28 年 3 月以降に卒業した者および平成 30 年 3 月卒業見込の者
- ④高等学校または中等教育学校を平成 25 年 3 月以降に卒業した者で、大学、短期大学(高等専門学校を含む)、
 大学校、専修学校の専門課程(修業年限が 2 年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満た
 すものに限る)に在学中の者および平成 28 年 3 月以降に卒業した者



平成 28 年度評議員会議事録

- ◆日時 平成 29 年 4 月 22 日 16 時
- ◆場所 天神スカイホール 16 階
- ◆出席 評議員：出席 44、委任出席 49、欠席 22
支部長（再掲）：出席 9、欠席 10

◇経過報告

- ◆黙祷 亡くなった先生方を悼み黙祷。
- ◆会長挨拶 高木会長

皆さん、土曜日のお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。今年は烏帽子会にとってターニングポイントの年になりました。今年 40 回生が卒業しました。そして、初めて主任教授になった 1 回生の朔先生が退官をし、バトンタッチした 11 回生の三浦伸一郎先生が新しく主任教授になりました。丁度 40 年目に起き epoch-making な年になったと思っています。

◆第 111 回医師国家試験状況 林副会長

今年は例年になく不調な状況に至っております。早急な立て直しが必要なことには変わりはありません。幸いなことに鍋島先生と安元先生が担当しておりますので、悪かったことへの対応がきちんとできる状態にあります。来年は今より良い結果をお示し出来るのではないかと皆考えております。つきましては今後とも変わらぬご支援の程をよろしくお願いいたします。

◆平成 29 年度子女入試状況 林副会長

子女の合格者数は 13 名。だいたい 1 割が子弟の入学状況となっています。医学部の入試は非常に厳しいです。現役で合格した人は少なく一浪ないし二浪の人が多いです。推薦に関してはいろいろ問題が出てまして、地域枠推薦が合格しやすいとの話もありましたが、途中で止まっている人が比較的多いのではないかとということもあり、今後の検討事項になっています。

◇議題 1. 平成 28 年度収入支出決算見込

〈事務局説明〉

[附]会費納入状況 〈田中理事〉
26 年度、27 年度、28 年度までの累積、28 年度単独の資

料を示しております。支部徴収 28 年度単独では 83.0% という高い納入率をいただいております。28 年度までの累積も 79.5% と概ね 80% 各年推移をしております。本部徴収に関しましては現在のところ 47% です。本部徴収の締めが 5 月末ですので例年の数字にいくのではないかと考えております。

どこの大学も会費の徴収に苦勞する中、本部、支部とも高い徴収率をいただいております。特に支部徴収に関しましては 12 支部の内 7 支部で 100% の徴収率となっております。日頃よりお忙しい中、支部徴収にご苦勞をおかけしております役員の方には、改めて御礼申し上げます。同窓会も多くの事業を実施しており、その為のご浄財を皆様から会費という形で徴収させていただいております。引き続きご援助いただきますようお願いいたします。

拍手をもって承認

◇議題 2. 平成 28 年度事業報告及び平成 29 年度事業計画（案）について

①会報の発行 〈武末理事説明〉

例年 2 回春と秋に発行しています。それに掛かる印刷費用及び輸送料です。61 号より写真をカラーとしました。カラーに変えることでの予算増はありません。ただ、毎年新入生の分の部数が増えていきますので、その分の印刷費用及び輸送料が増額となります。

②総会の開催 〈武末理事説明〉

総会担当学年に準備金として 20 万円渡しており、総会に招待する学生会員の会費を負担しています。

③支部活動援助 〈武末理事説明〉

講師招聘援助金は、今年は 6 支部より申請がありました。距離によって金額が違います。支部活動費は、支部徴収をしていただいている支部に対して援助をしており正会員 2 千円、準会員千円となっています。各支部活動費は、主に七隈支部福岡大学の地元でいろいろ活動するにあたり使っている費用です。28 年度はこの費用が少し嵩みました分予算よりオーバーとなっている状況ではありますが、大学への援助や学生さんへの援助は、同窓会の本来の姿であり、活発に活動していただくために必要な費用と

考えています。

〈重田副会長〉

会報につきましては、掲載記事などご意見や要望がありましたらよろしく願いいたします。学内にはいろいろな人材がおりますので支部の方に呼んでいただきたいと思えます。よろしく願いいたします。

④研究奨励賞 〈松永理事説明〉

今回は選考委員長ということで担当いたしました。28年度は14件の応募があり、選考に関しても過去最多の19名の現役教授で選考しました。それぞれ点数付けをし公平に評価を行い、話し合いの結果7名の方に授与することになりました。上位3名には若干高めの賞を決定いたしました。

〈林副会長〉

学内の人間にとっては同窓会からの重要な貢献として感謝しています。一方では同窓の教授が増えて来ました。この場にどれ程の論文を出しているかが、各教室のactivityを図る、また教授としてのかなえの軽重を問われることだと考えていただいて良いと思えます。

⑤在外研修援助金 〈林副会長〉

海外へ研修に行く方に申請をしていただき、行く先、研究目的が明確なこと、帰国後は母校に籍を置くという条件が整った方に援助をしています。最近は学生の希望者も増えており、留学している先輩の研究機関へ出来るだけ研修に行けるように手配し援助しています。同窓の若い人が伸びていくことに手助けになっているのではないかと考えています。今後とも持続的なご支援をお願いいたします。

〈星子先生〉

他の所で既に受賞している人はいないのですか？

〈松永理事〉

それについては調査しておりません。他で受賞しているから貰えないということはありません。

〈星子先生〉

福岡大学医学部同窓会が出している賞なので、他のところで受賞した人に賞をあげなくて良いのでは？

〈松永理事〉

この賞は若手の20代30代を対象としていますので貰われている方は少ないと思えます。基本的には実績のあるジャーナルに出している論文が殆どです。

〈林副会長〉

当座これを始めた時は、若い人が頑張った結果に同窓の先輩が良くやった!と言うことを大事にするという趣旨でした。他の受賞歴も問題にしませんし、賞金の使い道の制約も設けておりません。ご指摘の趣旨はよく解りましたので検討させていただきます。

⑥学生対策 〈安元理事説明〉

日頃から同窓会の先生方には学生への支援にご協力いただきまして誠にありがとうございます。新入生歓迎会には上級生、学内の教員も参加し、最後にはTシャツを配布していただきますが、解剖実習の時や部活の時など日頃も着ている様子を見かけます。4年生はCBTの前に行っています。これは学生が運営もしておりかなり活発に参加してくれています。6年生は学内で国家試験に合格した先輩の経験談を聞く「平成28年度ステップアッププログラム」という会の後、M6激励会をしていただきました。ΦBKは4年生のCBT、各科の試験、OSCEの結果からトップ10の学生に表彰食事に招待しています。これに関しましては学生の間ではそれに入りたいということで、トップ10に入ることを目標に頑張る学生が増えていきます。

⑦白衣贈与 〈安元理事説明〉

4年生にStudentDoctor認定式で授与していた白衣以外に、今年は1年生に1年次の病棟実習、3年次の地域医療実習で着用するためのKC型白衣を作っていただきました。今までくちやくちやな白衣でみかけが悪い状況でしたが、エンブレム、ネーム入りのお揃いの白衣を教養試験まで使うことにしています。それからは、病棟の患者さん、看護師さんから身なりがすごく良くなったとフィードバックをいただいておりますので、これも引き続きお願い出来ればと思っています。

⑧国試対策費 〈安元理事説明〉

国試対策は5年生、6年生を対象に8回生の牧野先生の勉強法を講義をしていただいています。牧野式という勉強法を開発し東京女子医大の学生を沢山合格させた実績のあるものです。丁度国試の直前で予想問題を6年生にも講義していただきましたが、6年生の殺気だった様子に5年生が刺激を受けています。6年生に関しましては、国試直前セミナーへの補助もしていただいています。主に同窓生の先生方が、夕方自分の専門領域を国試向けレクチャーをしています。卒業が決まって、後は国試に向かうばかりという時に、何をしたら良いのかわからなくなっている学

生もいて多く参加しています。

また学内で直前激励会をしております。各講座の教授の先生方にも来ていただいて学食でしていますが、その時のケーキやピザなど食事の補助をしていただきました。国試の昼食のお弁当を差し入れていただいております。

29年度に国試対策費の半分を国試合格の補習のために使わせていただきたいと思っています。

⑨支部祝儀贈与〈武末理事説明〉

新しく支部が発足した時にお祝い金として5万円差し上げています。今のところ発足はありません。福岡大学医学部の支部は七隈と筑紫病院以外は地域支部です。同じ地域でも人数が増えてくれば分かれるとか、関東方面からの学生さんも増えているようですので、新しく支部を作るとお互いに親睦を深め連絡を取り合うきっかけにもなると思います。支部会に参加させていただく時にお祝儀として本部よりお渡ししています。

⑩学生行事援助〈安元理事説明〉

例年とおり烏帽子会賞は西医体、九山において優秀な成績を納めた団体、個人に渡しています。今年是全国学会の学生部門で最優秀賞をとった学生に烏帽子会賞を贈っていただいております。

その他6年生がクリニカルクラークシップで韓国の啓明大学と交換留学をしており、その際の旅費負担、啓明大学生への白衣を贈与をしていただいています。この交流は11年目になりまして、これに行った学生たちはお互いの結婚式にも呼び合う位長い交流が続いています。

⑪学会寄付〈林副会長説明〉

学会寄付は増えており、しかも大きな学会が増えていきます。今後は大きな全国学会や国際学会が開催される可能性が高くなります。そういう場合に上限を今まで通りでいいのかということになります。浄財を使わせていただいておりますのでお願いになるのですが、日本でもトップランクの学会、国際学会の場合は出来れば上限を50万円に上げていただければありがたいと考えているところです。但し、学内同窓教授の場合に限ってのことにすべきかと思いません。

〈重田副会長〉

学会のお金集めは大変難しい状況になっています。出来る範囲で協力出来ればと考えています。上限については理事会でしっかり検討協議して決めていきたいと思いま

す。29年度は今年度より100万円増額予算額を上げさせていただきます。その範囲内での援助を考えております。

〈穴井評議員〉

同窓会として認めると言うよりも、自分たちの教室が学会を行う時は同窓会からの寄付を出していただくこととなります。本当に寄付集めは大変ですので増額は問題ないと思います。

〈野原沖縄県支部長〉

来年福岡で小児科学会があります。「日本」がついているからではなく小児科で一番大きな学会です。「国際」がついても大きなメジャーなものとは限りませんので見極めが非常に大事だと思います。優先するのは日本の大きな学会を最優先して、「国際」とついたらそれぞれ検証した方が良いでしょう。

〈竹野筑紫支部長〉

先程学生への国試強化補習の話がありましたが、その財源は確保していただきたい。学会に出すのも大賛成ですが、その為に強化補習する金額が無くなったとか減額するとか無いようにして下さい。100%目指すことが重要。外にいと100%だろうが85%だろうが実は関係ないんですよ。全く。素晴らしいトップランナーの先生方も勿論居て欲しいし、後輩たちには100%国試くらいは通っていただきたい。同窓会としてやることは100%合格するために努力すること。そこを削減することが無いようにお願いします。

⑫慶弔贈与〈武末理事説明〉

正会員3名の先生方への仏生花または弔慰金を出しております。教授就任のお祝いがあり予算増となっていますが、同窓会としては非常に嬉しいことです。

⑬グッズ作製〈武末理事説明〉

今年はネクタイ作成を予定しています。

⑭会員名簿 ⑮パニックマニュアルの発行 ⑯奨学金緊急貸与 実施せず

⑰縁結び〈田野理事説明〉

縁結びに関わる案内、申込書の諸経費、ホームページドメイン料に使わせていただいています。事業として4年余り経っていますが、残念ながら1組も成立しておりません。登録者として女性8名、男性2名おられ長い期間お待たせして大変なご迷惑をおかけしています。今後は業者の介入も視野に入れないといけなかなと個人としては

考えています。今後の理事会において問題点を探りながら議論を重ねたいと思います。

⑱保険コンサルティング紹介〈武末理事説明〉

平成24年12月に保険の紹介を行い契約があった場合手数料収入が入るという形でスタートしました。最近収入が減少しています。毎年1年生、5年生、国試合格者へご案内をしています。初年度はそれぞれ10名以上の問い合わせがありました。徐々に減少しています。これに関しましてはどうしたら良いか案内方法など考えたいと思っています。

保険案内と同時期に付帯サービスとして弁護士紹介を始めました。登録していただき、相談があれば弁護士さんに相談にのっていただく。実際に案件になった時はそれぞれの契約で進めていくというシステムです。これは上手くいっているようです。更に昨年からは労務ジャパンと契約し労務相談を始めました。現状としては弁護士と労務相談の件数が多く、お役にたっている部分もあるかと思っています。

相談事に関しては主に北九州、福岡、佐賀の近隣を回っておりますが、担当者を広島、宮崎に配置し回っているという状況です。同窓生の多い熊本、鹿児島へも広げて行きたいと考えているようです。同窓生へのサービスとして弁護士、労務相談がお役にたっていると思います。コンサルティングの案内などの事務経費がかかりますのでそれに見合う収入を目標に頑張りたいと思っています。

〈重田副会長〉

弁護士、労務相談が予想以上に多い状況でお役にたっているかなと思っています。何か相談されることがありましたら利用して下さい。支部の先生方にもお伝えいただけたらと思います。

以上事業計画案について説明いたしました。何かご質問はございませんでしょうか?ないようでしたらご承認お願いいたします

拍手をもって承認

◇議題3. 平成29年度収入支出予算(案)

事務局説明

〈重田副会長〉

拍手をもって承認

◇議題4. ホームページ 北島理事説明

ホームページが出来上がりましたのでご報告いたします。以前の烏帽子会のホームページは非常に立派に作成されていまして、構成等は以前を基に新しいホームページを作成しました。業者は以前と同じ会社でページ数は情報の増加により若干増えました。トップページは正面玄関、医学部本館全景、病院入口にある「福岡大学医学部」石碑の写真が回る様になっています。

Google検索によりデーターをまとめたものを提示して説明いたします。2015年のリニューアル前に見られている合計ページが1万ページだったのがリニューアル後は1万7千に増加しています。また以前はトップページのみ閲覧していた人が74%あったのが今は42%。6割の人が烏帽子会のホームページの中味を見ているということになります。だからページ数が増えていると言えます。ホームページへの訪問数ですが、毎月見ると7月にピークがあり総会の閲覧と考えられます。もう一つのピークが11月で医学祭のホームページから入ってくる方、後は入試の出願が始まりますので閲覧件数が多いと考えられます。実際にこのページを見ているかはトップページが一番多く、次に総会の案内、各種申請書となっています。では滞在時間については、トップページ45秒、総会の案内20秒で、一番長いのが2分14秒の烏帽子会会報です。昨年の秋号61号よりカラーにしたと同時にPDFにし載せていますので紙ベース以外でも見て下さっているのだと思います。閲覧手段として一番多いのが、Google、Yahoo!からの検索で「烏帽子会」と入力して閲覧してある方が45%。他は、烏帽子会サイトからの閲覧、外部リンク主に医学祭のサイト、Facebookからの閲覧です。閲覧者の年齢構成ですが、18歳～24歳が27%、卒業した後の25歳～30歳が33%、44歳までが15%。そこまで3/4を占め、多数若い方が見て下さっていると考えられます。では、どの地域から見ているかという点、地元の福岡県が半数以上占めています。続いて大阪、東京、関東圏、九州各県となります。最後にどのような機種で閲覧しているかどうかですが、リニューアル前は8割以上パソコンが占めていましたが、リニューアル後はスマートフォンが4割を占めておりますので、パソコンからスマートフォンに移っていると言えます。リニューアルの効果は若い世代にはあったと思います。

これから必要なのは、細かいアップデートです。大学でどのようなことがあっているのか、同窓会ではどのようなこ

としているのかアピールしていく非常に良い場所になります。リニューアルした金額が122万円で、今後維持するために年間20万円程経費として必要です。それを払っていく以上はアップデートをきちんと行い、きちんと見ていただくために重要な事業だと思っています。ご承認の程よろしく願いいたします。実際のホームページを見ながら説明。

〈安元理事説明〉

医学教育推進講座のホームページは学生の様子などをお知らせしています。5月の会報に正会員の先生方にアンケートを入れていただいています。これもホームページ上にPDFファイルでアップいたします。このファイルを利用してメールでお答えいただくこともできます。今の医学教育の流れや福大が何を目標しているかを載せていますのでご覧いただければと思います。

〈重田副会長〉

120万円の予算をかけましてホームページを新しくいたしました。北島先生にしっかり頑張ってもらって良いものが出来上がったと思います。これだけのアクセス数があると思っていなかったから驚きました。問題は上手く更新をしていくことだと思います。引き続き大変だろと思いますが頑張っていたきたいと思います。

〈穴井評議員〉

外来担当医表を見るためのID、パスワードは？

〈北島理事〉

会報に記載しております。アップデートについては主に私が担当しておりますが、理事も増えてきましたので、手伝っていただき、多くの先生方のご意見をお聞きしながらやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

〈重田副会長〉

皆さんのお知恵を拝借出来ればと思っております。ご意見があればお聞きしたいと思います。

〈坂本支部長〉

支部総会や研究会に学内の講師以上の先生や地域で活躍されている先生をお呼びしていますが、どういう先生が居られるのか、誰に聞いたらいいのか、ルートを作っていただけるとありがたいですが、いかがでしょうか？

〈林副会長〉

会報かホームページに若手の先生を紹介する場所を作っていくように検討していきたいと思っております。学内だけでな

く学外の講師なども情報を拾って行けるようにしたいと思います。

〈北島理事〉

ホームページの同窓生の活動状況には大学勤務の先生方を載せています。教授は福大、他大学で教授をされている先生を、その他は福岡大学病院、福岡大学筑紫病院の医局長、病棟医長、外来医長の一覧表を載せています。同窓生には卒業回数を入れておりますので、現場で活躍している先生が解ると思います。今後の議題として他大学分を上手くピックアップ出来ればと思っています。

〈重田副会長〉

そこの充実でしょうね。掲載範囲を広げたらどうかと理事会でも話しになります。病院の部長、院長など情報として伝えることができればかなり違うだろうと思います。何とか頑張って作ってみたいと思います。

◇議題5. 決算評議員会省略の件

拍手をもって承認

◇議題6. 福岡大学医学部同窓会烏帽子会 第36回総会案内

光藤利通先生より説明あり

原案通り承認

日時 平成29年7月1日土曜日

場所 ソラリア西鉄ホテル

17時より総会、17時55分より講演会を予定しております。講演は20回生のお二方に依頼しております。岡本嘉一先生、福大放射線科出身で現在は筑波大学病院放射線科講師として活躍されています。講演のテーマは「医療画像を使った少年野球選手の野球肘検診」です。マスコミでも取り上げられ朝日新聞の朝刊の人気コラム「ひと」に取り上げられております。～野球ひじを防ぐために少年野球チームをつくった医師～というタイトルで掲載されました。日常診療ではMR I画像をもとに診断をしてあり、その診断で悲劇を迎える投手を減らしたいとの思いで、野球チームを自ら立ち上げ9人のチームから始めています。投手は投げる球数を年齢毎に決めて交代する方針で取り組んでおり最初は負けてばかりだったようですが、創設4年

目でメンバーも30人以上に増え公式戦でも勝つようになりました。そういった興味深い話が聞けるかなと思っています。もうお一方は馬場康彦先生です。福大神経内科出身で現在は昭和大学藤が丘病院脳神経内科の准教授として活躍されています。講演のテーマは「福岡大学に生まれた20年」です。この20年のいろいろな話が聞けるかなと思っています。懇親会は、余興を計画されたりしていますが、今年は20回生全員にスポットを当てた企画を計画しております。

〈重田副会長〉

時間も場所も例年とおりのようです。ご参加の程よろしくお願ひいたします。担当の先生方よろしくお願ひいたします。

安元教授よりアンケートのお願いがございます。

〈安元理事説明〉

日本の全ての医学部は、医学教育が国際基準にあるかどうかの外部評価を受けることになっています。そこで福岡大学は九州では早めなのですが、2018年6月4日から8日まで日本医学教育評価機構から訪問を受けて評価を受けます。その中で「福岡大学医学部の使命・学修成果」を明確にするようにとの指示があり、FU RIGHTにあります内容が教授会で決定しております。学生が卒業する時には、全部習得して初期研修に行くことが目標となります。医学教育の能力を細かく（ⅠプロフェッショナルリズムⅡ医学的知識Ⅲ診療技術・患者ケアⅣコミュニケーションとチーム医療Ⅴグローバルな視野と地域医療Ⅵ科学的探究心を自律学習能力）の6つに分け具体的に記載しております。これを達成するためのカリキュラムを組んでいくアウトカム基盤型の教育をすることがこれからになりますし、国試の合格率も踏まえると医学教育そのものを変える必要がありますが、外部評価を受けることは、医学部教育を変える大きなきっかけになります。評価を受けるにあたり、今まで福岡大学が行ってきた医学教育でどういう卒業生が育っているのかも一つの評価基準にあげられています。福岡大学医学部のミッションとして上げているのは、卒業生の皆様が地域に根差した医療の中で沢山の貢献をされていることから、そのような医師を育てて行くことが福岡大学の使命だと考えています。卒業生の先生方がどのようなことで活躍されているか、論文などでは解りにくい先生方の近況を是非アンケートで調べさせていただき、外部評価の際に地

域に根差した医師が育っていることをデータとして出そうと考えています。医師会での活躍とか地域に対しての啓蒙活動、学生や研修医の教育に携わっておられると思いますので是非そのようなことを書いていただきたいと思っております。

論文とか海外の大学で国際的に活躍しているだけでなく、地域で外国の患者さんを診ていることも国際的な活動になりますので先生方の活動内容を教えて下さい。

先生方の個人情報いただきますので同意書をつけておりますのでよろしくお願ひいたします。個人を特定できないような形で処理をさせていただきます。IRで厳重に管理をさせていただきます。

同窓会のご協力をいただき5月発行の会報と一緒に卒業生全員へアンケートを送らせていただくことが出来ました。アウトカム基盤型の教育が進んで行きましたら、この教育が福岡大学を本当に良くしているのか卒業生の動向を将来的には調べる予定です。全員対象へ送るのは1回のみで、何年か経過した時対象を絞った形のアンケートになるかなと思います。アンケートには氏名は必要ありません、学籍番号記載に抵抗がある場合は卒業年度だけでも構いません。卒後何年かが必要ですのでよろしくお願ひいたします。

〈竹下理事〉

病理診断についての説明とお願ひあり。

〈林副会長〉

学内の状況説明あり。

〈重田副会長〉

平成28年度評議員会を終わらせていただきます。ご協力ありがとうございました。

学生会報告

学生会立ち上げについて

福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 小 玉 正 太 (13 回生)

はじめに

本日は医学部での学生活動についてご紹介致します。学生自治による各種委員会は、今まで国試対策委員会や西医体委員会をはじめ数々存在していましたが、個々の委員会には連携がありませんでした。また各種委員会は縦型で各学年を統括するはずの委員会でしたが、主に各学年への連携やこれを収載す

ることを目的とする委員会も存在しませんでした。さらに今後は各種委員会との有効な資金活用も考慮に入れ、各種委員会を包括し各年学に連絡網を有する学生自治会として学生会が発足しています（組織図参照）。今後はOBの皆様から彼らの活動に、ご理解とご支持を頂き叱咤激励を頂ければありがたく存じ上げます。

学生会会長挨拶

西 泊 翔 太 (M5)

2017 年度より福岡大学医学部医学科公認のもと、福岡大学医学部医学科学生会を立ち上げましたので、烏帽子会会報の場をお借りしてご挨拶、および設立の経緯・目的・今期の役員・今期の活動実績につきましてご報告をさせていただきます。

はじめまして、福岡大学医学部医学科 5 年の西泊翔太と申します。2017 年度福岡大学医学部医学科学生会の会長を務めさせて頂いております。

近年、医学教育の質の保証と向上を目的として、全国の医学部において「JACME (日本医学教育評価機構) による医学教育分野別評価の受審」と「受審を契機としたカリキュラム等の見直しと整備」が行われています。福岡大学医学部医学科でも 2018 年 6 月の受審に向けて、カリキュラムの見直しと整備が行われています。福岡大学医学部医学科が医学教育分野別評価を受審するに当たりまして、「学生の教育への参画」という項目が必要となり、多くの先生方の御協力や学生の後押しを受けて、福岡大学医学部医学科学生会は設立されました。

このような契機で発足した学生会は、JACME による機能評価の項目を満たすためだけでなく、「学生と学生の間および大学と学生の間で、医学教育や大学生活についての意見を交換すること」「学生同士および大学と学生が、お互いを理解して緊密な連携を取っていくことで、より良い医学部を作っていくこと」も目的として活動しております。

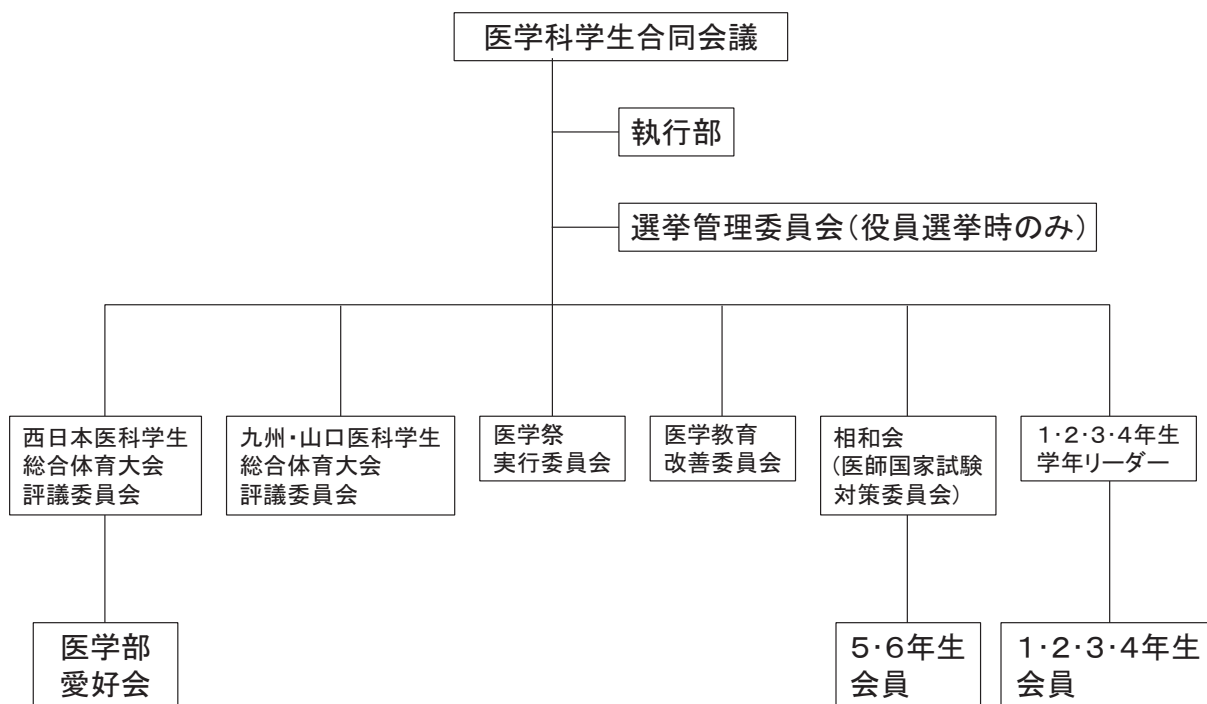
この目的の達成のために学生会では、西日本医科学生総合体育大会福岡大学委員会、九州・山口医科学生総合体育大会福岡大学委員会、福岡大学医学祭実行委員会、相和会 (学生による国試対策委員会)、また今年度から設立された医学教育改善委員会を取りまとめ、大学の先生方などのお力添えをいただきながら活動させて頂いております。

今期の学生会は、執行部役員 5 名 (会長: 5 年西泊翔太、副会長: 4 年岡本峻和、会計: 4 年石田達也および 4 年竹内優、書記: 4 年石井麻梨奈) を中心として、多くの学生と協力し、多くの先生方から御助言をいただきながら、活動を行っております。

4月から9月までの今期の活動として、2018年度カリキュラムの検討委員会への出席、すべての学年を対象としたカリキュラムや学生生活に対するアンケートの実施、久留米大学医学部の学生会との交流、執行部会議(7回)ならびに医学教育改善会議(1回)の実施、学生が自学自習に用いる医学部情報棟の学習環境の改善、などを行なって参りました。

以上の内容をもちまして、学生会についてのご説明とご報告とさせていただきます。これからも福岡大学医学部医学科をより良いものとするために一同で努めて参りますので、OB・OGの先生方ならびに保護者の皆様には温かく見守っていただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

福岡大学医学部医学科学生会組織図



学会開催報告

第 14 回アジア大洋州小児神経学会議のご報告

福岡大学医学部 小児科学 教授 廣瀬 伸一 (3 回生)

去る5月11日から14日にヒルトン福岡シーホークホテルにて、第14回アジア大洋州小児神経学会議(AOCCN2017)を「Next Generation Child Neurology: New Momentum From our Region」をテーマとして開催し、無事終了いたしましたので、ご報告いたします。

AOCCN2017には38か国から、多くの方にご参加いただき、最終登録者数は1105名に上りました。海外からの参加者が60%を超え、名実ともに日本で開催された国際学会となりました。発表演題数も826になりました。その内訳は、ポスター数は598、特別講演数が151、一般応募演題から77題の口演発表でした。参加者数、演題数ともアジア大洋州小児神経学会議の過去の記録を大幅に塗り替えました。

前日の5月10日にはプレコンgressを行い、4名の先生がたから教育的な講義を頂きました。3日間の会期中を通じて、4つの会場での早朝セッションに、教育的な講演や若手の口演を配置して、Next Generation Child Neurologyにふさわしい次世代の育成を図るプログラムを実施しました。また二日目にはアジアの発展途上国の問題を取り上げるセッションを二つ準備して、New Momentum From our

Regionの地域特異性の一部を議論しました。Plenary lecturesとして、二日目午前中にepileptic encephalopathyを取り上げた会頭シンポジウムを、同日午後には国際小児神経学会の次期会長Dr. Jo Willmshurstとアフガニスタンで活躍する中村哲先生にご講演を頂きました。3日目の午前には日本の小児科神経学が生んだ偉大な先人、福山、大田原、瀬川先生を称えるシンポジウムを開催しました。同日午後には日本小児神経学会理事長の高橋孝雄先生とロボット技術HALで医療に貢献する山海嘉之先生のご講演を頂きました。いずれも多くの参加者が熱心に聴講されました。

国内外の多くの参加者から、「プログラムとその内容が学術的にも最高であった。」とのコメントをいただきました。特に、国際小児神経学会の次期会長Dr. Willmshurstが、「国際小児神経学会を凌駕する勢いの本学会の盛況と学術性の高さに大変驚いた。」と明かされました。以上より、AOCCN2017は記録的な参加者数や演題数ばかりでなく、学術的にも大変成功した学会であったと判断しました。末筆ながら、福岡大学医学部同窓会の助成によりAOCCN2017が成功に導かれたことをここに記し、会頭として深甚なる感謝を申し上げます。



第 34 回日本呼吸器外科学会総会

福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科 教授 岩崎 昭 憲 (5 回生)

この度、第 34 回日本呼吸器外科学会総会を、2017 年 5 月 18 日(木)、19 日(金)の両日、福岡国際会議場において開催させていただきました。

福岡市での開催は第 3 回大会以来、実に 31 年ぶりとなりました。学会テーマは「呼吸器外科医の道 継承する技と心」と、いたしました。

お蔭様で過去最多の 1450 題余りの演題応募をいただき、アジア地区からも 40 題を超える応募をいただきました。日本呼吸器外科総会は、この領域では世界でも最も大きな規模の学会です。会期中には、2300 名を超える参加をいただき過去最多参加数になりました。招請講演には、ウィーン大学の Walter Klepetko 教授に拡大手術、肺移植や気道系の手術に関して幅広く講演をいただき会員一同は大変感銘をうけました。また、コペンハーゲン大学の Jesper Pedersen 教授による肺癌 CT スクリーニングに関する講演や、Network を用いたアジア各施設との国際

ライブセッションを実施しました。ESTS と JACS の Joint Session では、ヨーロッパと日本の国際交流が行なわれました。特別講演は、岩中督 NCD 理事長による各外科領域の活用状況や、教育講演では 2017 年より改定された第 8 版の肺癌新 TNM 分類、また中皮腫の最新病理知見についてプログラムに組み込まれました。さらに世界的な業績を残した日本の呼吸器外科医の姿を知っていただくためのメモリアル講演も大変好評を博しました。英語発表の会場とトラベルグラントを多く準備したこともあり、海外からの参加者が多かったのも本会の特徴でした。

来年度は、参加者が 7000 人を越える第 31 回日本内視鏡外科学会総会を開催する予定です。準備を始めたところですが、今回の経験を生かして更なる目標に向けて頑張りたいと考えています。

同窓会の皆様には、度々のご支援をいただき深く感謝申し上げます。今後とも宜しく願い致します。



第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会を終えて

福岡大学筑紫病院 消化器内科 教授 植木 敏 晴 (8回生)

第103回日本消化器内視鏡学会九州支部例会を第109回日本消化器病学会九州支部例会会長の久留米大学消化器内科鳥村拓司教授と合同で、平成29年5月19日(金曜日)と20日(土曜日)の二日間に渡って、福岡市のアクロス福岡で開催しました。計324題の演題を頂戴し、1018名の医師、59名の研修医・医学生の方々に参加して頂き、本会が盛会に、そして無事に終了したことを心より感謝申し上げます。

ここ数年で、消化器病の診断や治療は飛躍的に進歩し、多くの新しい診療ガイドラインが出版され、消化器医は、常に最新の情報を得ること、そして実際の診療で実践することが求められています。今回の合同支部例会では、現在の知見を紹介すると共に、多くの新しい知見を九州から発信できればと考え、鳥村教授の発案で、テーマを「消化器病の new frontier を求めて」としました。

一方、最近の内視鏡や腹腔鏡、さらにロボット機器や、内視鏡と腹腔鏡関連手技の進歩は目覚ましいものがあります。内科医と外科医が緊密に連携し、より低侵襲で、安全かつ確実な診断、治療を提供する必要があります。

そこで、主題として、消化管内視鏡検査、colitic cancerを始め、消化器内視鏡関連のトピックスを取り上げました。さらに下部消化管狭窄と胆嚢総胆管結石の治療について内科と外科から内視鏡や腹腔鏡治療手技とその成績を発表して頂きました。各主題セッションでの活発な討論を通じて一定のコンセンサスが得られ、日常臨床に大変役立てたことと思います。

特別講演では、日本を代表する胆道内科医の一人である藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院消化器内科教授(前日本胆道学会理事長)の乾和郎先生に「胆道疾患の診療に対する私の挑戦」と言うタイトルで、日々進歩する胆道疾患診療、特に胆道内視鏡の歴史とその進歩、将来展望について講演して頂きました。大変勉強になりました。

また、一般演題を始め、専修医・研修医発表を行い、特に専修医・研修医発表については優秀演題を5月19日の情報交換会で表彰しました。多くの研修医の方々が消化器内科に入局して頂くことを願っております。

最後に、福岡大学医学部同窓会、筑紫病院同門会および関連病院の先生方、他関係者の皆様、ご協力、ご支援、誠にありがとうございました。



第 50 回日本胸部外科学会九州地方会総会

福岡大学医学部 呼吸器・乳腺内分泌・小児外科学 教授 岩崎 昭 憲 (5 回生)

『50 年の実りを次の 100 年へ』

第 50 回日本胸部外科学会九州地方会総会を、平成 29 年 7 月 27 日(木)・28 日(金)の 2 日間、福岡市のアクロス福岡において開催させていただきました。学会のテーマは、「50 年の実りを次の 100 年へ」といたしました。

50 年目の節目を迎える記念すべき総会もお陰様で盛会に終了することができました。

日本胸部外科学会創設から 20 年後の 1968 年に九州でも初めて九州地方会総会が開催されました。以来、多くの業績が国内外へ発信され今日に至っていることもあり、本学会では半世紀にわたり行われた先達の歩みを明らかにするとともに、今後発展することが期待されている話題も盛り込んだプログラム構成をしました。

特別企画では、“九州胸部外科の 50 年”と題して富永隆治先生に心臓・大血管、白日高歩先生に呼吸器・食道のメモリアル講演をいただきました。本企画

は九州におけるこれまでの歩みを振り返り将来を見据える手がかりになり、多くの会員から高い評価をいただきました。教育講演には日本胸部外科学会理事長の大北裕先生に“大動脈基部の治療戦略”、教室の白石武史先生には“手術器具に名を遺した巨匠たち～胸部外科手術器具開発の歴史と使用法～”というテーマで講演いただきました。第一線で活躍されている先生方に実践的な講演をいただき会員にとって有益な学会になりました。その他の演題数は、心臓血管外科、呼吸器外科、食道外科などの領域から一般口演 110、ビデオ 13、Case Report Award 21、Student Award 8、の合計 152 題と多数の演題発表をいただきました。

同窓会を始め多くの皆様のご支援をいただいたことに、深く感謝を申し上げたいと思います。

写真は総会時(中央が筆者)、Award 表彰式(向かって右端)での筆者です。



第59回日本平滑筋学会総会を終えて

福岡大学医学部生理学 教授 井上隆司 (特別会員)

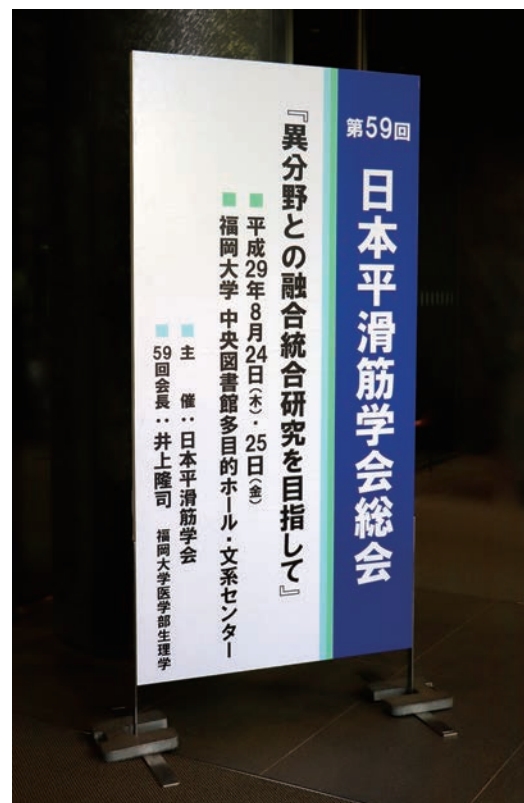
平成29年(2017年)8月24, 25日の両日にわたり、福岡大学中央図書館多目的ホール及び文系センターにて、第59回日本平滑筋学会総会の会長として学術集會を主催いたしました。本学会は基礎臨床横断的な学会で、毎年、基礎系・臨床系の研究者が一堂に会し、体内諸臓器の生理や病態生理の理解、またこれに基づく臨床診断や治療法の検討・提案を目的とした情報交換を行っております。

本学会では「異分野との融合統合研究を目指して」をテーマとして掲げ、新規勃興する生命科学分野、特に再生医工学や先端生体イメージング技術に関連した医工学との連携を図りました。具体的には、特別講演に岡山大学医歯薬総合研究科の成瀬恵治先生をお招きし、「メカノメディスン：メカノ医工学を駆使した再生医療・生殖医療への展開」と題した講演をいただきました。また学会企画シンポジウムⅠ「再生医学・工学が革新する平滑筋関連臓器機能の研究」では本学の小玉正太教授(再生移植医学)に、学会企画シンポジウムⅡ「先端可視化技術による臓器機能研究の新展開」では本学の沼田朋大講師(生理学)にご講演を頂きました。これに加え、本学の竹田津英稔・消化器内科准教授に「知っておきたい腸内細菌の知識—基礎と臨床」という今まさに旬のタイトルでランチョンセミナーをしていただきました。このように新しい題材を中心にプログラムを組んだためか、最終的には、当初の予定を大幅に上回る150名以上のご参加を頂き、大変活気のある学会となりました。更には、優秀発表賞セッションには福岡大学か

らの3名を含む19名ものエントリーがあり、福岡大学医学部生理学の平石敬三さんが見事に受賞するという栄誉にも恵まれました。

このように思いがけず全ての面で充実した学会となりましたのも、福岡大学医学部同窓会烏帽子会を始めとする福岡大学医学部・病院の皆様から大変貴重なご支援を頂いたお陰であると痛感いたしております。同窓会の皆様にはこの場を借りて心より御礼を申し上げたく存じます。

本会で得られました様々なレベルでの学術交流が、微力ながら今後の福岡大学における基礎・臨床医学研究の発展に資することを祈念し、本学会のご報告といたしたく存じます。



在外研修報告

University of California Irvine に留学して

福岡大学医学部 心臓・血管内科学講座 末松 保 憲 (準会員)

福岡大学医学部同窓会より在外研究支援金を頂き、2015年10月から2017年9月までアメリカのカリフォルニア州にあるカリフォルニア大学アーバイン校(UCI)へ、HDLコレステロール機能に関する研究を行うために留学して参りました。

カリフォルニア大学はロサンゼルス校であるUCLAが有名ですが、全部で10校あり、UCIはロサンゼルスから車で1時間ほど東に位置します。住環境は恵まれていました。気温は非常に高かったですが、湿度が低いためそれほど暑く感じませんでした。また、日本人もたくさん暮らしており、近くには日系のスーパーや書店があり、日本食レストランには蕎麦屋や沖縄料理屋なんかもあり、同行した家族は特に英語が話せなくても暮らせる環境でした。

UCIでは腎臓内科・高血圧科に所属しました。PIであるDr. Vaziriは海外留学生を数多く受け入れており、多国籍な環境の中で研究を行ってきました。液体クロマトグラフィー/マススペクトラム(LC/MS)を用いてHDLコレステロール機能を評価する研究を行い、当科以外にも解剖・神経生物学教室やカリフォルニア州立大学ロングビーチ校生化学教室とも連携して解析を行いました。この研究は私の後任として留学された福岡大学病院循環器内科の後藤昌希先

生が現在も継続して行っております。その他、慢性腎臓病モデルラットを用いて新規薬剤の心保護作用も検討してきました。当科は腎臓内科であったため循環器医は自分1人しかいませんでしたが、福岡大学大学院で学んだ事を活かして研究をやり遂げる事が出来ました。その他、縁あってUCI移植外科の先生方と臨床研究も行いました。北米を中心としたNSQIPというビッグデータを用いた解析であり、妊娠患者手術時の術後静脈血栓塞栓症のリスクを検討しました。2年という短い期間でしたが、目的としたHDLコレステロール以外の研究も行う事ができ、非常に充実した海外留学となりました。

アメリカでの生活は自分を成長させてくれました。様々な人種が混ざり合っている社会だからか、相手を尊重する姿勢や自分の理解できない事への懐の深さを感じる事が多々あります。研究面では既成概念に囚われない新たなものの考え方を教えてくれました。最後になりますが、この貴重な留学生活を実現させて頂いた本同窓会、朔医学部長、三浦教授をはじめ、多くのご協力頂いた先生方に感謝申し上げます。今後は留学で得た経験を活かして福岡大学医学部に貢献できるよう頑張ってまいります。



Massachusetts General Hospital (MGH) への留学

福岡大学医学部 40 回生 宮部 美圭

私は、2017年2月26日から3月5日まで、ハーバード大学医学部関連施設の中で最も中心的な病院である、Massachusetts General Hospital (MGH), Harvard Medical School に留学しました。現在、同施設で研究中の福岡大学医学部消化器外科の山田哲平先生のご引率のもと、こちらでは主に、Division of Surgical Oncology, Department of Surgery の Dr. Soldano Ferrone の研究室で各種固形癌に対する最先端の免疫治療の開発研究現場を見学させていただきました。また、癌抗原を特異的に認識し癌細胞を攻撃する遺伝子改変された T 細胞 (夢の癌治療薬) を実際に胆管癌モデルのマウスに投与する現場を目の当たりにしました。近い将来、癌治療の幅が広がっていくことを予感させられる、壮大な研究が行われている場所でした。さらには、手術の見学や HCC カンファレンスにも参加させていただく機会にも恵まれました。山田先生には、MGH main campus 内だけでなく、Longwood medical areaにあるBrigham and women's hospital や Dana-Farber cancer institute などのその他のハーバード大学医学部関連施設の中も案内していただき、世界の医療の発展を担う多くの日本人研究者の方々とお話しさせていただく機会を得ました。その中には、Nature 論文を既に発表された先生方も沢山いらっしゃり、日本とはスケールの大きさが異なることを実感しました。また、実際に数少ない MGH の外科レジデントの枠を勝ち取ったギリシャ人の方とお話する中で、アメリカで医師として働くにはどのような準備、勉強をし、どのような手段をとればよいか、より明確に知ることができました。

休日には、ロブスターやクラムチャウダーを頂く機会もありました。またボストン美術館を訪れたり、氷点下 12 度の極寒の吹雪の中、ボストンコモンを散策したりしました。1 週間と短い期間でしたが、とても楽しく充実した留学となりました。

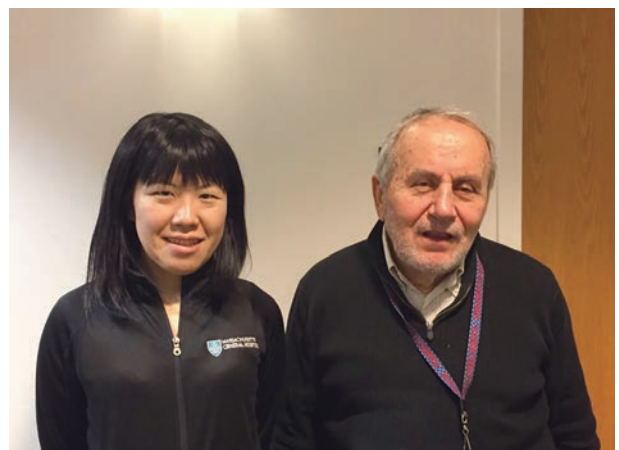
私は学生時代の長期休暇を利用して、今回の短期留学の他にも、シカゴやカリフォルニアの医学部への留学、沖縄海軍病院でのエクスターンシップへの参加など、医師になる前に数多くの貴重な経験を積む

ことができました。大学での勉強はもちろんのこと、このような課外活動にも力を入れることによって、日本国内だけでなく海外の医療を視野に入れた、グローバルなものの考え方が身につきました。多くの時間を自分のために使える、学生の時でしかできない貴重な体験だったと思います。また、様々な世界を見てきて学んだことは、医師として働いている今も、日常の業務や患者さんと接する中で、色々な場面で生かされていると実感しています。

今回、留学を引き受けてくださった山田哲平先生、また留学先を紹介して下さった小玉正太教授、さらにいつも支えてくれた家族や応援して下さった方々に、感謝の気持ちを述べたいと思います。有難うございました。



Longwood medical area で山田哲平先生と



MGH のラボのボス、Dr. Soldano Ferrone と

タイのコンケン大学に留学して

野 中 裕 文 (M5)

8月12日～19日、タイのコンケン大学に短期留学し、Sringerind Hospital ERにて4日間の臨床実習をさせていただきました。

今回の留学の目的は、自身の英語の能力を磨くこと、海外の医療現場に行き日本の医療現場との違いを知ること、異なる文化背景を持つ患者さんの考え方をすることで自身の医療人としての視野を広げることでした。



Sringerind Hospital 前で

私が海外の医療現場としてタイのコンケン大学を選んだ理由は、昨年と今年の4月にコンケン大学の学生と交流する機会があり、知っている学生がいたこと、タイは英語が第一言語ではない国であることでした。

春に留学に来た学生達とコンケンで再会し、色々話すことで文化の違いや医療の違い、タイの医学生の考え方など多くのことを共有できました。タイは英語が第一言語ではない国だったため、ドクターや学生との会話はお互いに伝えようと努力しなければなりませんでした。それが自分自身への刺激となり、今後英語を話す努力を続けようと思いました。

臨床実習では、医療資材や学生実習について日本との違いを感じました。日本なら抗生物質で治療



Wat Thung Setthi Temple

できる症例も、医療費が高いという理由で抗生物質を使わないなど、治療についてよりコストを重視していることも印象的でした。学生実習については、学生の臨床場面への参加に違いを感じました。コンケン大学では、学生が問診を行い、診断や検査方針を決め、指導医に確認をとって行える検査については自身で検査を行っており、より実践的な実習を行っているように感じました。患者さんと実際にお話しすることはできませんでしたが、先生方や学生と英語でコミュニケーションをとることで様々な症例をみることができました。



ERでのエコー実習

最後になりましたが、今回の留学を実現させていただいた朔医学部長、自見先生、留学前に当直実習を受け入れてくださった救命救急センターの先生方、

烏帽子会への推薦状を書いてくださった安元教授、在外研究援助金による留学のご支援をいただいた烏帽子会の先生方、ありがとうございました。



E R 前にて B S L のメンバーと



Certification Ceremony

ハーバード MGH での貴重な体験

野見山 櫻 子 (M2)

今年の夏、2017年8月17日から24日の日程で、ハーバード大学医学部 マサチューセッツ総合病院 (MGH) 外科学講座腫瘍外科教室の Prof. Soldano Ferrone の研究室に短期留学させていただきました。医学部2年生ということで少し早い時期ではありましたが、留学先でお世話になった福岡大学医学部外科学講座消化器外科から出向されている山田哲

平先生のご尽力のおかげで、とても有意義な時間を過ごすことができました。

以下、経験して来たことをご報告させていただきます。

17日に出国し13時間のフライト後、同日夜にボストンのローガン空港に到着、翌18日から研究室の見学をさせていただきました。はじめにMGHの受付で山田先生とお会いし、それから世界初エーテル全身麻酔公開手術の行われたエーテルドームを含め、隣接する施設や館内の説明を受け、研究室へと向かいました。Dr. Ferrone にご挨拶をし、早速、山田先生に実際の研究内容やプロトコルの説明や研究活動現場の見学をさせていただきました。

最初に見たのは、各種がん組織の免疫組織化学染色でした。Dr. Ferrone の研究室で開発製造された、HLA class I APM の各分子やがん抗原を特異的に認識できるモノクローナル抗体が使用されていました。また、このモノクローナル抗体を使用して、世界



山田先生と

中のがん免疫療法の研究者が注目するキメラ抗原受容体発現 T 細胞はがんの特異的な抗原を認識して活性化し、がん細胞を傷害するのみならず、体内において大量に増殖する。つまり、抗体医薬の高い特異性と、細胞療法の強い細胞傷害活性および増殖活性をあわせもつ非常に強力な治療法だそうです。

キメラ抗原受容体発現 T 細胞 (CAR + T cells) も開発されていることを知りました。

先生方のもう一つのお仕事であるがん免疫療法の教科書の作成についてのお話も伺うことができました。今回はがん細胞の HLA class I 発現低下による免疫逃避機構に関する部分を勉強させて頂きました。初めての英語文献で少し読むのに多くの時間を要しましたが、ちょうど前期授業の白澤教授の組織細胞生物学、廣松教授の免疫学でお話があった所でしたので、なんとなくの理解はできました。

研修初日の最後に、同研究室で培養してある三種類の胆管がん細胞を見せて頂きました。完全な接着型や接着浮遊型の混合型などがあることを学びました。(滞在中、3 回ほど見せて頂いたのですが、その増殖スピードの違いなども観察できて、非常に興味深いものでした。)

中日の土曜日、日曜日の 2 日間は市内観光をしました。時差ボケでなかなか日中長い間外に出ることができなかったのですが、ボストン美術館、ハーバード大学、MIT などを訪れました。市内観光の途中、バージニア州シャーロットビルでの暴動を受けての大規模なデモにも遭遇しました。幸いボストンコモン周辺では、早い時間から警備体制がひかれていたので巻き込まれることはありませんでしたが、各国で報道されていたようなので、日本でもニュース等でご覧になった方がいるかもしれません。

研修 2 日目では、まず 1 日目にもらった英語文献で分からなかったことを山田先生に解説して頂きました。その後、1 日目に引き続き各種がん組織の免疫組織化学染色の見学をさせて頂きました。同染色は行程が 2 日間に分けられており、作業の効率化のた



Dr. Ferrone と

め 1 日目の過程と 2 日目の過程が同時並行で行われていました。新たな染色法で染められたメラノーマの組織も見せて頂きました。まるで教科書で見ると綺麗に染められていて、非常に驚きました。

研修初日は緊張で話を聞くだけで精一杯だったのですが、滞在 4 日目で 2 回目の研究室訪問となると少し慣れて来て、研究室の中をゆっくりと見回す余裕が出て来ました。高校の時の部活動で遺伝研究に少し携わったという経験もあり、日本の大学の研究室の機材等に馴染みがあったので、何か違ったものがないか探してみました。もちろん見たことのない道具もたくさんありましたが、ぱっと見大きな違いはなく、むしろ、このハーバードにも日本製の機材等がたくさんあることも驚きでした。今回、私が興味を持ったのはペン型の道具でした。これは透明な線をスライドガラスに書くことができるペンで、スライドガラスに試薬をかける時にはみ出さないようにする働きがあるとのことでした。実験に必ず必要というわけではありませんが、より実験をしやすくするお助けアイテムです。将来研究に関わっていくことも視野に入れていることをお伝えしていたためか、実験器具の購入の仕方なども教えて頂きました。

その後、CAR-T 細胞が出す IFN- γ ELISA の測定などを見学、そして 1 日目と同じく培養中の胆管がん細胞の観察もさせて頂きました。いくつかある培養液のうち、ピンク色のものと薄茶色っぽくなったものが

ありました。薄茶色っぽくなるのは培養中のがん細胞が増えたことを意味するそうです。茶色でも混濁したものは最近が感染(コンタミネーション)していることを意味するそうですが、普通は感染することはないそうで感染例の見学はできませんでした。

研修2日目の最後は、がん細胞とCAR + T cells細胞との共培養実験の仕方やがんモデルマウスの作り方について教わりました。がんモデルマウスは基本的に免疫不全マウスにがん細胞を注射したり、患者さんから摘出したがん組織の一部を移植して作るそうです。先生方は胆管がんや膵臓がんのモデルマウスを作ることに成功され、そこにCAR + T cellsを投与し、効果を確認していました。実際のモデルマウスの写真も見せて頂きました。マウスはとても体が小さいため、血が一滴出ただけでも命に関わると聞いていたので、実際に手術を行うのはかなりの技術がいるのだろうと感心しました。現段階での研究結果も見せて頂きました。1回目のCAR + T cellsの投与結果は驚くべきもので、最初の腫瘍がほとんど見えなくなっているのが写真で一目瞭然でした。しかし現段階ではこの効果は長期間持続しないそうで、その後また腫瘍が大きくなっている写真を見ました。再発、拡大をいかに防ぐかが今後の課題だそうです。

そしていよいよ研修最終日。午前中、先生方は複数の会議があるということで、その間にMGHの歴史博物館へ行って来ました。中に入ると背の高い気さく



Anatomage IMG

な老紳士の方に話しかけられました。彼はここの解説員だそうで、なんと元MGHの小児外科のドクターだったそうです。展示説明や施設の案内などをして頂き、私が日本の医学生であるということが分かるととても喜んで下さいました。

ここには世界初のエーテル全身麻酔公開手術が行われた場所のため、麻酔に関する展示が多くありました。もちろん、麻酔に関するもの以外の展示もあります。ここで印象に残る2つの展示について紹介したいと思います。1つはAnatomageという大きなタブレットのような機械です。約1人分くらいの大きさで、なんと操作一つで人体の表面図から血管のみを表示したり、中の臓器を映し出したりできました。ちょうど解剖実習を終えた後だったので、とても興奮しました。そしてもう1つは事故で完全に両断されてしまった腕を元通りに接合する手術を世界で初めて成功させたのがここMGHであったということが書かれてある展示です。内容も驚くべきものですが、さらに驚くべきことに、先述した解説員のドクターは実際にこの手術に立ち会っていたらしいのです。帰国後に調べてみると、カナダご出身のDr. John Trumanという先生でした。本当に医学が大好きだと話していて、時代の流れを説明してくれながら「たった数十年でここまで医学が進歩するなんて誰が予想できたと思う？今の医学の進歩は僕らの時代よりずっとはやくなっているよ。このような発展を担う次世代の君たちは、そんな中で20年先を考えて生きることがとても大事だと思うよ」と話して下さいました。最先端を走って来た方のお話はとても重みがあり、また新しい価値観になんとも言えない斬新さと感動を覚えました。

また、同日は、米国内で皆既日食が起きていた日でもあり、地元の小学生くらいの男の子が空を見上げて嬉しそうにしているのが印象的でした。

午後から研究室に戻ると、小児外科の世界では知らない人はいないというくらい世界的に有名なMGH小児外科の大ボス、Prof. Patricia K. Donahoeにお会いする機会を得、オフィスにまで入れて頂きご挨拶

拶させて頂きました。とても物腰の柔らかいご高齢の女性ドクターで、私の今の学年のことや今後の進路などについてお話下さいました。

夕方までに大体の施設や研究内容を見せて頂いたのだったんホテルへ戻り、また夜に行う過程を見に行くことにしました。

午後9時過ぎに再び研究室を訪問し、がん細胞に発現するPD-L1やCD133という分子を抗体で染色して発現の有無や増減を見るための、フローサイトメーターでの解析過程をみせて頂きました。少量の培養液を吸い上げ、そこに光を当て目的の物質がそこにどれくらいあるのかを調べるというものでした。最後に、山田先生に「内緒ね」と言われ、なんとこの研究室でも取り扱う人間が限定されているという実際のCAR + T cellsを顕微鏡観察させて頂きました。最先端の内容を実際に見て学ぶことができたこと、大変嬉しく思いました。

また、この研究室の山田先生の同僚で大親友の中国陸軍病院外科の准教授 Dr. Lei Cai から今日が最後だろうから記念にとスターバックスのポストン限定ボトルを頂きました。非常に驚いてしまい、もっと感謝の言葉を述べたかったのですが、ただありがとうございますというので精一杯でした。山田先生から後から聞いた話なのですが、Dr. Lei Cai はもうすぐ母国へ帰国する予定で教授になられることが決まっているそうです。(留学から帰って一ヶ月経った今ももったいなくて使うことができず、部屋に大事に飾ってあります。)

これで見学内容はすべてです。

先述しましたように、高校時代に遺伝子研究に携

わった経験が少しあり、さらに将来、本格的に研究に携わって行けたら良いなと考えていたため、今回の研究室訪問はとても良い経験になりました。また、留学するにあたって、目的を明確にしておかなければならないということも先生方と話す中で強く感じました。その先何をしたいのか、何を得たいのか。それによって留学すべき場所も、期間も、やらなければならないこと(医局決め等)も、すべてが変わっていくのだということを学ぶことができました。また、研究室には、将来外科医を目指す他大学の学生が夏季休暇を利用して勉強しに来ていたり、医学部入学を目標にするハーバード大学出身のテクニシャンの方もいらっしゃいました。その方々と話すなかでアメリカの医学部入学にあたり、研究業績や研究テクニックも求められることを知り驚きました。在学中の長期休暇や卒業後、名門大学や有名病院で研究活動を行うことがアメリカ国内の医学部入学において重要な判断材料になるそうです。国際認証を受けるにあたって日本の大学も実習時間を確保しなくてはならない理由もここにあるのかなと思いました。

最後になりましたが、今回の留学にあたりコネクションを作ってくれた、再生・移植医学講座、応用再生医療開発講座の小玉正太教授、現地受け入れでお世話になった外科学講座消化器外科の山田哲平先生、そして今回留学を許可して下さいました烏帽子会の方々に深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後の進路に関して大きなものを得ることができました。この経験をいかしてこれからも精進して参りたいと思います。

学生対策報告

平成 29 年度烏帽子会主催 福岡大学医学部 M4 年生激励会を終えて

福岡大学医学部 病理学 教授 竹 下 盛 重 (3 回生)

2017 年 9 月 8 日(金曜日)、ホテルモントレラ・スール福岡にて M4 年生 84 名 (出席確認した方は 100% 出席)、M4 主副担任 4 名、M5 年生 11 名、M3 学生 1 名、烏帽子会員 18 名とともに M4 激励会を行いました。今回は M4 年生の出席が 84 名で、留年を経験されている方の欠席が目立ちますが、あまり気にしないで先輩たちの有意義な講演をしっかり聴いていただきたいのが私達の本音です。M5 年生 11 名にも来ていただき、M4 年生へのアドバイスをいただきました。また、2 次会も各自であり、楽しい時間であったと思います。

会は、初めに本学 13 回生であり昨年 4 月より福岡大学医学部心臓血管外科教授に就任された和田秀一先生より「人生の転機、チャンスについて考える」というタイトルで講演をいただきました。和田秀一先生は卒業後広島大学第一外科に入局し、フランスボルドー大学で心臓手術の研鑽をされ、その後、広島大学心臓外科、川崎幸病院、福岡大学心臓血管外科で現在の心臓血管外科の困難を 1 つ 1 つ克服し現在に至っております。人は所々でチャンスがある。そのチャンスに立ち向かい克服することが自身の将来につながるという内容でした。福大医学生にやる気を起こさせる内容で感動いたしました。

その後は、七隈祭医学部委員長である花岡勝蔵

君が司会進行役となり、懇親会が行われました。朔学部長も都合を付けて出席いただきました。やはり盛り上がります。懇親会では高木忠博会長のご挨拶、副担任、OB の皆様、重田正義副会長等よりアドバイスを頂きました。M4 を克服して student doctor になる努力と自覚、十分に勉強し M5, 6 を充実させること、M6 卒業時の国家試験 100% 合格、大学を卒業してからも本大学を盛り上げてほしいという内容であったと思います。また、M4 年生より西医体でバスケットボール女子が準優勝したといううれしい話が出てきました。M4 年生はあと 2 年半しか学生として自由に使える時間はないと思います。よく遊び、よく勉強し充実した大学生生活を送ってほしいと思います。最後は恒例、全員で校歌斉唱を行い、終わりとなりました。

例年 M5 年生が約 10 人来て頂き、縦のつながりが出来ております。M3 年生も参加頂きました。本年より医学部内で「学生会」が正式にできあがり、教育や環境改善に関して意見ができる様になりました。この M4 激励会も学生が主体となって、集まって楽しい会になっていけば良いなと思います。散会後は事故がないように各自気をつけていただきたいと思ます。これも例年危惧する所です。



講師の和田先生



M4 激励会

花 岡 勝 蔵 (M4)

こんにちは。今年度 M4 激励会にて司会を務めさせて頂きました花岡勝蔵（はなおかかつぞう）です。今年度の激励会は9月8日、ホテルモントレラ・スール福岡にて催されました。

はじめに、本学医学部を卒業され、心臓血管外科を専門とされ大いにご活躍されている和田秀一先生にご講演して頂きました。和田先生の海外留学のお話や、手術の現場の臨場感のあるお話はとても熱い思いに満ち溢れていて、医学生として身が引き締まる思いを痛感すると同時に、和田先生のような方の後輩であることを幸せに感じました。

また、烏帽子会会長の高木先生をはじめ、副会長

の重田先生、烏帽子会会員の先生方、各班の担任の先生方、5年生の先輩方から激励のメッセージをいただきました。その言葉すべてが私たちの前途を期待してくださるもので、有難いものでした。これらをしっかりと心に刻み、まずはCBT試験の突破、そして有意義な病院実習に繋げていく所存であります。

最後になりましたが、激励会開催におきましてご尽力いただきました烏帽子会の諸先生方、学生側と連絡を取っていただいた竹下先生、司会進行の際に多大なご協力をいただいた北島先生に学生を代表して心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



医学科 1 年生 ケーシー白衣授与式

医学教育推進講座 教授 安 元 佐 和 (7 回生)

同窓会の皆様には、日頃から医学生に対するご支援を賜り、誠に有り難うございます。

本年度もH 29 年 9 月 4 日に、医学科 1 年生ケーシー白衣授与式が挙行され、同窓生教授の朔医学部長、林教授、坂田教授、小玉教授より、1 年生全員にケーシー白衣が贈られました。全員で新しい白衣を着用し、山本恭平君 (17 回生 山本純也先生ご子息) が全員を代表してお礼の言葉を述べました。白衣授与式の後、医療安全、感染防止のオリエンテーションを受け、手指消毒の練習後、病棟師長に先導されて、初めての病院実習がスタートしました。初

めての大学病院の臨床現場では、全員が緊張の連続だったことと思いますが、「何故、自分は医師になるのか」、今一度思いを新たにしたことと思います。

実習後には、実習を通して「医師に求められること、自分の中にある良医の資質」をテーマに K-J 法でグループ討論し、全体で発表を行いました。自分の長所を挙げるのは難しかったようですが、これからも福岡大学医学部に入学できたことに感謝を忘れず、医師への道を謙虚に歩んで欲しいと思います。

同窓会の皆様、誠に有り難うございました。

福岡大学医学部同窓会の皆様

このたびは、M1 に白衣を授与していただき、誠にありがとうございます。我々一同、思わぬお八達いに変り有り難く思っております。皆様のご厚意にお応えすべく、なお一層の努力をしておりますので、今後ともご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。 M1 代表 浦田 健太郎



新 入 生 歡 迎 会

福岡大学医学部 再生・移植医学 教授 小 玉 正 太 (13 回生)

昨年同様、第一部として西医体委員、医学祭実行委員、九山委員からなる実行委員会が主催の歓迎会、第二部として同窓会主催の歓迎会を開催しました。

第一部を担当した学生は、スケジュール管理、第一部会場より第二部会場への誘導と同窓会へのボタンタッチを成功させました。

第二部は新入生に在學生 22 名クラス担任教員 12 名理事監事 15 名を加え、総勢 156 名による祝宴となりました。

初めに、田中伸之介理事によるスライドを使っての同窓会についての説明があり、新入生も在學生も真剣に話を聞き入っていました。その後担任、教員の先生

方より歓迎の言葉をいただき、OB・OGの言葉、同窓の先輩でもある朔医学部長より福岡大学医学部が目指しているビジョンについてのお話、恒例のTシャツ贈与(通称烏帽Tと言われているらしい)と続き、最後は全員Tシャツ着用で校歌斉唱となりました。

これからの6年間有意義な学生生活を送って欲しいと強く願っています



同窓会とは……?

人として、医師として
「先輩を敬い、後輩を導く」

烏帽子会の主な事業

- | | |
|---------|--------------|
| ①会報の発行 | ⑩学生行事援助 |
| ②総会の開催 | ⑪学会寄付 |
| ③支部活動援助 | ⑫慶弔贈与 |
| ④研究奨励賞 | ⑬グッズ作製 |
| ⑤在外研修援助 | ⑭会員名簿発行 |
| ⑥学生対策 | ⑮パニックマニュアル発行 |
| ⑦白衣贈与 | ⑯奨学金貸与 |
| ⑧国試対策 | ⑰縁結び |
| ⑨支部総会援助 | ⑱保険コンサルティング |



女子バスケットボール部 創立 31 周年記念パーティー

正 木 稔 子 (26 回生)

平成 28 年度に、女子バスケットボール部が創立 30 周年を迎え、15 回生の中村亨代先生、福井チナミ先生をはじめ、OG18 名、学生 24 名が一堂に会し女子部員で祝賀会を開催しました。

「女子部は平成 28 年度で 30 周年や!」中村浩さんの声が頭をよぎったのは、昨年 12 月のバスケ部忘年会の最中でした。中村浩さんは女子部創立に尽力し、長年に渡りバスケ部全体を支えて下さいました。その浩さんが昨年 11 月に天に召され、偲ぶ思いで集まった忘年会で、30 周年を忘れていた私に呼び掛けてくださったのかもしれない。

さて、たかが一部員でしかないわたしですが、先輩方に当時のお話しをお聞きしまして僣越ながら女子部の歴史を。

15 回生の中村(旧姓藤村)亨代先生がプレーをしたいと入部しましたが、女子プレイヤーがいませんでした。男子と一緒に練習をするものの試合に出ることができなかつたため、マネージャーをされていました。当時共にマネージャーをされていたのは 15 回生の長島(旧姓福田)純子先生。翌年、16 回生の城戸(旧姓永井)由紀子先生が入部。そして、17 回生の田淵(旧姓末次)晶子先生とマネージャーとして竹下(旧姓齊田)優子先生が入部。

女子プレイヤーが 3 人となり、「卒業までに何とか 1 回は試合に出てプレーをしたい」と思った中村亨代先生が、15 回生バレー部の青井瑞穂先生と福井チナミ先生に声をかけ、ようやく試合に出られる人数が集まり、(バスケは 5 名で 1 チームです)、試合出場が可能となり、女子部がスタートしました。

そうして人数は徐々に増え、強くなり、現在に至るそうです。

女子部史上、初の全医体出場が 1998 年。そして

1999 年。

以後、

2013 年、全医体 2 位。

2014 年、西医体優勝、全医体 5 位。

2015 年、西医体優勝。

2016 年、西医体準優勝。

2017 年、西医体準優勝、全医体 4 位。

と近年はめざましい成績を残しています。看護科や薬学部の学生さんも入部してくれ、大人数で練習や試合ができ、強さの秘訣になっています。

学生の皆さんが頑張ってくれているおかげで、OG 一同大変盛り上がり、全国散り散りバラバラになった女医さんがネット上で再集結。お祝いの品を送ったり、忘年会に行こう!と呼びかけ合ったり、再び先輩後輩の関係を満喫させてもらっています。

そんな中迎えた 30 周年。私がすっかり忘れていて開催が 1 年遅れてしまいましたが、31 周年を記念してホテルモントレラ・スール福岡にて祝賀会を催しました。

中村亨代先生と福井チナミ先生に、創部当時のお話しを対談形式でしていただき、その後田淵晶子先



生に乾杯を。各テーブルに OG と学生が混合で座りバスケ話に、医療話に、女医話に、盛り上がりました。途中、学生の方から女医さんに向けた質問を承り、「外科ドクターの専門医を取るまでの働き方とその後働き方はどんな感じですか?」「看護師として家庭を持ちながらも病院で夜勤しながら働くことは可能ですか?」という内容に、女医さんに答えてもらう場面も。ぶっちゃけトークも炸裂して、とても楽しい時間になりました。バスケ部として集まってはいますが、私たちは医師になるのですから医師としての話もしたいですね。

あつという間の 2 時間。初めてお会い出来た方や、久しぶりに顔を合わせる面々、貴重な時間となりました。この会をもって、女子バスケ部の OG 会が発足しました。

こうした繋がりは一生の宝で、医師としても女性としても模範になる先輩方、話を聞いてくれる同級生、

頼りになる後輩たちに囲まれて感謝が尽きず、学生時代に部活をやっていた本当に良かったと思う次第です。部活で得る物は、「スポーツ」だけではない、むしろ人という財産だと改めて痛感しました。

今回、祝賀会をやるということですぐに行動に移して下さり共に幹事をして下さった MM94 の槇彰子先生。「何かやることがあったら何でも言ってね!」とフットワーク軽く声をかけて下さった先輩方、心から感謝申し上げます。

また男子部の支えなしには、今の女子部は存在しません。心より感謝申し上げます。(今回は女子だけで開催してごめんなさい。感謝は尽きません!)

女子バスケ部員で連絡が来ていない方がいらっしゃいましたら、ぜひご一報下さい。

toshikomhrmt228@yahoo.co.jp

これからも女子バスケ部をどうぞよろしくお願いいたします。





キャンパスだより

《烏帽子会賞受賞者一覧》

愛好会名	受賞者	受賞対象
アーチェリー愛好会	柳 邊 崇 志	第十回西日本医科学生アーチェリー競技大会 男子個人総合第2位(5/4～5/5)
ゴルフ愛好会		第五十六回九州山口医科学生体育大会 男子団体準優勝

西医体個人準優勝のご報告

福岡大学医学部アーチェリー愛好会 柳 邊 崇 志 (M3)

5月に行われました第10回西医体アーチェリー競技大会において、2位入賞することが出来ましたのでご報告させていただきます。7月の烏帽子会総会におきましては、温かい言葉をおかけ頂いたこと、これからの大会に向けた激励のお言葉いただけましたこと、日頃より様々な応援・サポートしていただいていることと合わせ、改めて先輩先生方には感謝してもきれません。本当にありがとうございます。

今回は第10回という記念すべき大会であり、この大会を福岡大学が主幹で開催するにあたっては、大きな喜びと少しばかりの緊張を胸に試合に臨みました。競技委員長という立場ではありましたが、準備期間を含め、心の底からこの大会を楽しめたのは、支えてくださった先輩方、協力してくれた友人、後輩がいたからこそと思います。

大会は二日間かけて行われました。初日のものはターゲット競技と呼ばれ、50mを36射+30mを36射の計72射うちます。2日目はフィールド競技と呼ばれ、山の中に入って、近い距離で10m、遠い距離では65mから、見上げるような位置にある的を狙ったり、逆に崖から見下ろすような位置にある的を狙ったりします。

2日間合計144射という長い闘いで大切になるのは、心を折らないことです。つらい時に心の支えとなるのは負けないための練習をしてきたという自負や、大会の結果を報告する毎に温かい言葉をかけてくだ

さるOB・OG先生方の存在であり、また、一緒に戦っている部の仲間存在です。これからも練習を重ね、結果につなげていければと思います。ありがとうございます。



烏帽子会賞を受賞して

福岡大学医学部ゴルフ愛好会 中島史暁 (M4)

はじめに、榮譽ある烏帽子会賞を頂きましたことを部員一同厚く御礼申し上げます。2017年4月29、30日に九州大学主管のもと、唐津ゴルフクラブにて行われました第56回九州山口医科学生体育大会において男子団体の部で準優勝致しましたのでご報告させていただきます。

ゴルフ競技での団体競技では、事前に登録した5人のメンバーのうち大会時の上位4人のスコアが採用され、その合計スコアを競います。しかし今大会では3位の大学と、4人の合計スコアが同数となったため、5人目のスコアも採用され、辛くも準優勝という成績を収めることができました。まさにメンバー5人が誰一人として1打もスコアを落とすことのできなかつたぎりぎりの戦いでした。また個人のほうでも、5位(6年生)と7位(5年生)の入賞があり、その2人は団体メンバーでもあったので、このような喜ばしい結果となったと思います。しかし、優勝できなかつた悔しさや自らの力不足を実感した大会でもあったと思います。

九州山口地区では1年に、この九州山口医科学生体育大会と、秋に行われる七校戦の2つの大会があります。また秋の七校戦でも良い結果をご報告できますよう、部員一同切磋琢磨して練習に励みたいと思います。

最後に、これまで多大なご支援を頂きましたOBOGの先生方、多くのことを指導して下さった先輩方、また一緒に練習してきた部員、これらすべての存在が今大会の成績に関わっているのだと思います。本当にありがとうございました。



訃報

正会員	井手 周二郎 先生	平成 29 年 3 月 6 日	ご逝去 (20 回生)
正会員	光石 和夫 先生	平成 28 年 12 月 20 日	ご逝去 (3 回生)
正会員	種子田 洋史 先生	平成 29 年 5 月 7 日	ご逝去 (13 回生)
正会員	田原 春夫 先生	平成 29 年 3 月 27 日	ご逝去 (5 回生)
正会員	新井 孝 先生	平成 29 年 5 月 28 日	ご逝去 (11 回生)
正会員	上野 清司 先生	平成 29 年 9 月 18 日	ご逝去 (8 回生)
特別会員	河田 溥 先生	平成 29 年 8 月 16 日	ご逝去
特別会員	松岡 雄治 先生	平成 29 年 8 月 19 日	ご逝去
特別会員	廣木 忠行 先生	平成 29 年 8 月 20 日	ご逝去

曾田豊二先生を偲んで

福岡大学医学部耳鼻咽喉科学教室 教授 坂田俊文 (10 回生)



2017 年 1 月 13 日、当科初代主任教授の曾田豊二先生がご逝去されました。1925 年生まれの享年 92 歳でした。曾田先生は九州大学医学部耳鼻咽喉科学教室の助教授を経て、当科初代

主任教授、大学病院長として辣腕を振るわれ、1988 年には日本耳鼻咽喉科学会の第 9 代理事長に就任されました。そして多くの業績を残し人材を育成した後、1995 年に退任されました。

私が初めて曾田先生にお会いしたのは耳鼻咽喉科学の講義のときで、1984 年のことでした。実に楽しそうにお話をされるのですが、医学よりは政治や

哲学的なお話が多く、私を含めほとんどの学生はノートを取ることができませんでした。卒後、耳鼻咽喉科に入局してからは、その人柄に触れ、懐の大きさとおおらかさの中に明確なビジョンを持っておられたのが印象的でした。また、お話のところどころに挿入される「やるです」という言葉がジングルのように感じられ、今でも曾田先生の柔和な表情と共に鮮明に思い出されます。昨年 4 月に私が主任教授を拝命したときにはとても喜んで下さり、「若い人たちと酒を飲みながら話をしよう」と、ご自宅の居間で目を輝かせておられました。昨年の秋頃から体調を崩され、年が明けると天空への階段を一気に駆け上がって行かれました。謹んでご冥福をお祈り致しますとともに、これまでのご指導とご尽力に感謝する次第です。また、曾田先生と親交が深かった多くの皆様方にも深く感謝致しますとともに、ご健康とご多幸を祈念申し上げます。



田原春夫先生を偲んで

福岡大学筑紫病院 泌尿器科 部長 石 井 龍 (5 回生)

2017年3月27日、同期の田原春夫先生が肺癌のため60歳の若さで逝ってしまいました。ここで記憶の断片を綴って彼を偲びたいと思います。

彼とは福大医学部の同級生でしたが、学生時代には全く交流はなく、1982年に同期で泌尿器科に入局したことで初めて話をするようになりました。彼に泌尿器科を選んだ理由を聞いてみたところ「腎臓の手術をやってみたい。臓器の中で腎臓の形が最も好きだから、そう思わない?」と言っていました。研修医1年目、手術日には彼はいつも Netter のアトラスのような緻密なイラスト入りの手術記録を深夜まで残って書いていました。研修医2年目は、彼は七隈に残り私は佐賀医大に行きました。その後、彼は解剖、私は病理の大学院に進みましたが、あまり顔を合わせること



がなく4年間が経過し、久しぶりに会った学位記授与式で握手をしたことを覚えています。その後、お互い臨床に戻りましたが、同じ職場で働くことはありませんでした。もともと田原先生とはプライベートで一緒に飲みに行ったり、ゴルフをしたりという付き合いはなかったため、研究会、学会や忘年会などの医局の行事で会うだけになりました。結局、彼の命を奪った肺癌が、いつ発症しどんな治療を受けていたかも知りませんでした。

田原先生は20年以上前に「福岡神経泌尿器科セミナー」を立ち上げ世話人になりました。このセミナーは、排尿障害に関連した症例検討と専門家の講演という構成で、彼が司会を務めていました。最新のセミナーの案内を見ると、2017年3月5日にタカクラホテルで開催、総合司会 田原春夫、「電腦排尿障害質問箱」の送り先には彼のメールアドレスが載っていました。2017年明け、このセミナーの案内を送る頃、彼がどのような状況で何を思っていたかを考えるとたまらない気持ちになります。

3月29日に神式の葬儀の通夜祭があり、そこで田原先生の最近の写真を見ることができました。玉串を奉って拝礼し最後のお別れをしました。御安霊をお祈りいたします。

種子田 洋史先生を偲んで

なごみ泌尿器科クリニック 院長 御 厨 学 (15 回生)



泌尿器科医の先輩である種子田 洋史先生のご逝去の報に接し、謹んで哀悼の意を表します。

福岡大学の先輩でもある種子田先生のお顔は学生時代から存じ上げていましたが、

泌尿器科の種子田先生と認識したのは医学部6年の泌尿器科講義後の事だったかと思います。講義室に種子田先生が入ってこられ、泌尿器科の魅力についてお話しになったのです。わずか数分の出来事でしたが、泌尿器科医として生き生きされた種子田先生が印象的でした。

卒後、私も福岡大学医学部泌尿器科学教室へ入局させていただく事となり、種子田先生から直接ご指導いただく機会も増えてきました。特に多くのことをお教えいただいたのは、学外研修として白十字病院へお世話になった1993年9月からの約1年半で、種子田先生は医員としてご活躍でした。私にとって白十字病院は泌尿器科医としての基礎を作っていた大切な場所です。医師としての知識や技術だけでなく、医師患者関係の重要性などについて、身近な存在として直接ご指導を賜ったことにつきましては、感謝のあまりに言葉もございません。

当時研修医だった私は、自信を持てずに患者様へ接しておりました。その態度をご覧になり、患者様にとっては経験年数に関係なく同じ医師として映っていることを肝に銘じ、不断の努力を惜しまないことについて熱く語っていただきました。そして患者様がまず頼るべき医師は主治医であること、主治医の不安げ

な表情が治療結果をも左右すること、などを学びました。

種子田先生にはご自身のお考えを率直に言われる厳しい面がありましたが、その一方で心優しい面もお持ちでした。病状が不安定な患者様を私が担当している時には黙って院内で待機なさせて、その後さり気なく食事に誘っていただきました。そして仕事上の悩みのみならず、プライベートな事に対しても気軽に相談に乗っていただいた事が、今でも懐かしく思い出されます。

種子田先生は白十字病院を離れられた後、研究の道へと進まれました。1995年4月に福岡大学医学部の研究生となられ、「腸管利用尿路変向における水・溶質代謝の長期観察と利尿の影響：4年経過した一側回腸導管モデル犬において」という博士論文で医学博士の学位を取得されるなど、臨床だけでなく研究者としてもひとつの結果を残されています。

その後しばらくは医局の関連病院に勤務されましたが、故郷での開業を目指し鹿児島へお戻りになりました。私が先生と最後にお会いしたのは福岡で開催された学術講演会の時です。ご開業を数ヶ月後に控え、その夢に向かって生き生きしたお顔が印象的だったことが思い出されます。

先生の突然の悲報は、開業医の先輩としてこれから色々アドバイスを受けたと思っていた矢先の事であり残念でなりません。私にとって種子田先生は困ったときにサッと手を差し伸べてくださる、医師としても一人の人間としても大変頼りになる存在でした。

種子田先生、大変ありがとうございました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

福岡大学医学部同窓会諸表

平成 28 年度収入支出決算

区分	科 目	28 予算 :A	28 決算 :B	28 決算予算比較	28 決 算 内 訳
収 入	繰 越 金	12,339,969	12,339,969	0	
	会 費 収 入	29,351,000	31,841,600	▲ 2,490,600	入会費：4,899,500 学年会費：4,889,060 年会費：21,870,880 準年会費：182,160
	手 数 料 収 入	360,000	143,070	216,930	契約件数 25 人
	雑 収 入	20,000	17	19,983	預金利子
	預 り 金 収 入	40,000	57,450	▲ 17,450	
	仮 入 金	0		0	
	合 計	42,110,969	44,382,106	▲ 2,271,137	
支 出	給 与	3,330,000	2,532,720	797,280	パート 2 名
	旅 費	2,100,000	2,668,940	▲ 568,940	役員旅費：462,000 評議員会：531,160 私大連絡会：466,340 その他：1,209,440
	事 務 用 品 費	400,000	283,050	116,950	
	印 刷 費	2,959,000	2,339,286	619,714	会報：2,139,648 封筒：142,560 その他：57,078
	通 信 運 搬 費	1,777,200	1,224,731	552,469	電信電話：87,526 会報：629,060 切手葉書：90,954 その他：417,191
	設 備 工 事 費	240,000	298,080	▲ 58,080	維持契約
	什 器 備 品 費	240,000	3,456	236,544	電話器バッテリー
	事 業 費	19,760,000	17,670,888	2,089,112	総会費：413,076 研究奨励賞：2,132,396 在外研究援助金：1,000,000 学生会員支援：4,063,573 国試対策費：891,437 学生行事援助費：502,470 支部活動費：3,205,064 支部祝儀：120,000 M1M5 白衣贈与：1,615,888 慶弔費：1,455,920 学会寄付：850,000 縁結び支援費：161,352 保険コンサルティング：37,800 ホームページリニューアル：1,221,912
	会 議 費	2,000,000	1,350,916	649,084	理事会、会長懇話会：558,591 評議員会：483,510 各種会議他：308,815
	公 租 公 課	71,000	71,000	0	福岡県民税：21,000 福岡市民税：50,000
雑 費	2,032,400	1,657,810	374,590	税理士報酬：32,400 渉外費：75,000 グッズ：16,180 その他：1,534,230	
預 り 金 支 出	40,000	58,600	▲ 18,600	給与源泉徴収税	
引 当 金 積 立	3,500,000	0	3,500,000		
借 入 金 返 却	0		0		
予 備 費	3,661,369	0	3,661,369		
合 計	42,110,969	30,159,477	11,951,492		
収 支 差 引	0	14,222,629	▲ 14,222,629		

平成 28 年度残金処分

残金額（収支差引額）	14,222,629 円
奨学金積立金積立	0 円
刊行物積立金積立	2,000,000 円
事業積立金積立	0 円
次年度繰越	12,222,629 円

平成 28 年度特別会計決算

	事業積立金	奨学金積立金	刊行物積立金	合 計
前年度より繰越	88,889,531	12,481,919	3,783,363	105,154,813
本年度増加額		402,500	2,000,000	2,402,500
本年度受取利息	4,304			4,304
本年度減少額	▲ 12,312			▲ 12,312
本年度未決算額	88,881,523	12,884,419	5,783,363	107,549,305

平成 28 年度事業報告と平成 29 年度事業計画

年度 項目	平成 28 年度 事業計画		平成 28 年度 事業報告		平成 29 年度 事業計画	
	予算 (A)	実績 (B)	予算 (C)	C - A		
① 会報の発行	3,453,200	2,768,708	3,610,100	156,900		
② 総会の開催	400,000	413,076	400,000	0		
③ 支部活動援助	1,900,000	3,205,064	1,900,000	0		
④ 研究奨励賞	1,600,000	2,132,396	2,000,000	400,000		
⑤ 在外研究援助	2,000,000	1,000,000	2,000,000	0		
⑥ 学生会員支援	4,500,000	4,063,573	5,400,000	900,000		
⑦ 白衣贈与	2,000,000	1,615,888	2,000,000	0		
⑧ 国試対策費	2,000,000	891,437	2,000,000	0		
⑨ 支部祝儀贈与	230,000	120,000	230,000	0		
⑩ 学生行事援助	800,000	502,470	800,000	0		
⑪ 学会寄付	2,000,000	850,000	3,000,000	1,000,000		
⑫ 慶弔贈与	300,000	1,455,920	300,000	0		
⑬ グッズ作製	0	0	2,000,000	2,000,000		
⑭ 会員名簿発行	0	0	0	0		
⑮ パニックマニュアル発行	0	0	0	0		
⑯ 奨学金貸与	0	0	0	0		
⑰ 縁結び	1,000,000	161,352	1,000,000	0		
⑱ 保険コンサルティング	30,000	37,800	30,000	0		
⑲ ホームページ		1,221,912	24,000	24,000		
合計	22,213,200	20,439,596	26,694,100	4,480,900		

平成 29 年度収入支出予算

区分	科目	28 予算	29 予算	29 年度予算摘要	28 予算-29 予算
収 入	繰越金	12,339,969	12,222,629		117,340
	会費収入	29,351,000	29,851,000	入会費:5,189,000 学年会費:4,722,000 年会費:19,800,000 準年会費:140,000	▲ 500,000
	手数料収入	360,000	100,000	保険コンサルティング紹介手数料	260,000
	協賛金収入	20,000	20,000		0
	雑収入	40,000	40,000	グッズ売上ほか	0
	預り金収入	0	0	給与源泉徴収税	0
	積立金繰入	0	0		0
	仮受金				0
合計	42,110,969	42,233,629		▲ 122,660	
支 出	給与	3,330,000	3,330,000	パート 2 名	0
	旅費	2,100,000	2,100,000	役員旅費:600,000 評議員会:500,000 私大連絡会:500,000 その他:500,000	0
	事務用品費	400,000	400,000		0
	印刷費	2,959,000	2,970,500	会報:封筒:2,610,500 封筒:200,000 その他:160,000	▲ 11,500
	通信運搬費	1,777,200	1,899,600	電信電話:100,000 会報:999,600 切手葉書代:30,000 その他:500,000	▲ 122,400
	設備工事費	240,000	300,000	維持契約費	▲ 60,000
	什器備品費	240,000	240,000		0
	事業費	21,760,000	22,084,000	総会費:400,000 研究奨励賞:2,000,000 在外研究援助金:2,000,000 学生会員支援費:5,400,000 国試対策費:2,000,000 学生行事援助費:80,000 支部活動費:1,900,000 支部祝儀:230,000 M1,M5 白衣贈与費:2,000,000 慶弔費:300,000 学会寄付:3,000,000 縁結び:1,000,000 保険コンサルティング:300,000 WEBサイトサーバー費:24,000 事業予備費:1,000,000	▲ 324,000
	会議費	2,000,000	2,000,000	理事会、会長懇話会:700,000 評議員会:500,000 各種委員会:300,000 その他:500,000	0
	公租公課	71,000	71,000	福岡市市民税	0
	雑費	3,032,400	2,032,400	税理士報酬:32,400 渉外費:500,000 慶弔費:500,000 その他:1,000,000	1,000,000
	預り金支出	40,000	40,000	給与源泉徴収税	0
	引当金積立	2,000,000	2,000,000		0
協賛金支出	0	0		0	
借入金返却				0	
予備費	2,161,369	2,766,129		▲ 604,760	
合計	42,110,969	42,233,629		▲ 122,660	
収支差引	0	0		0	

医局長・医長名簿 (○内の数字は福大医学部卒業回)
(平成29年10月現在)

	医局長	病棟医長	外来医長
[福大病院]			
腫瘍・血液・感染症内科	田中俊裕 ⑰	佐々木秀法	茂木愛 ⑮
内分泌・糖尿病内科	田邊真紀人	福田高士 ⑳	元永綾子 ㉑
循環器内科	小川正浩 ⑭	志賀悠平 ㉒	岩田敦 ㉓
消化器内科	森原大輔 ㉔	高田和英 ㉕	横山圭二 ㉖
腎臓・膠原病内科	安野哲彦 ㉗	伊藤建二 ㉘	安部泰弘 ㉙
血液浄化センター		升谷耕介	
呼吸器内科	松本武格 ㉚	串間尚子	石井寛
神経内科・健康管理科	合馬慎二 ㉛	藤岡伸助 ㉜	深江治郎
精神神経科	吉良健太郎 ㉝	原田康平	黒岩健輔 ㉞
〃 (ディケア)			飯田仁志 ㉟
小児科	野村優子 ㊱	井原由紀子	藤田貴子 ㊲
消化器外科	吉田陽一郎	小島大望 ㊳	塩飽洋生 ㊴
呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	吉田康浩 ㊵	早稲田龍一	今村奈緒子
整形外科	前山彰 ㊶	田中祥継 ㊷	田中潤
形成外科	川上善久	淵上淳太	森田愛
脳神経外科	安部洋 ㊸	小林広昌	森下登史
心臓血管外科	峰松紀年	林田好生 ㊹	松村仁
皮膚科	柴山慶継 ㊺	古賀文二 ㊻	山口和記
泌尿器科	入江慎一郎 ㊼	古屋隆三郎 ㊽	松崎洋吏 ㊾
産婦人科	宮原大輔 ㊿	倉員正光 (産科)	讃井絢子 ㊿
〃		南星旭 ㊿(婦人科)	
眼科	佐伯有祐	日吉篤史 ㊿	有田直子 ㊿
耳鼻咽喉科	大西克樹 ㊿	竹内寅之進	佐藤晋 ㊿
放射線科	浦川博史 ㊿	赤井智春 ㊿	納彰伸 ㊿
麻酔科	平井孝直 ㊿	廣田一紀	柴田志保 ㊿
歯科口腔外科	瀬戸美夏	近藤誠二	喜多涼介
病理部	溝口幹朗 ㊿		
臨床検査部	大久保久美子		
輸血部	熊川みどり		
救命救急センター	川野恭雅 ㊿	入江悠平 ㊿	
総合周産期母子医療センター		大田栄治 ㊿(新生児部門)	
		柳祐典 (3階南病棟)	
総合診療部	堀端謙	増井信太 ㊿	堀端謙
東洋医学診療部	久保田正樹 ㊿		
[筑紫病院]			
筑紫病院(総医局長)	山本良太郎		
循環器内科	白井和之 ㊿	岡村圭祐 ㊿	山本智彦 ㊿
内分泌・糖尿病内科	※工藤忠睦 ㊿	阿部一朗	小林邦久
呼吸器内科	赤木隆紀 ㊿	宮崎浩行	原田泰志
消化器内科	野間栄二郎 ㊿	小野陽一郎 ㊿	石川智士 ㊿
小児科	吉兼由佳子 ㊿	堤信 ㊿	鶴澤礼実
外科	平野公一 ㊿	榎研二 ㊿	濱武大輔 ㊿
整形外科	秋吉祐一郎	南川智彦	野村智洋 ㊿
脳神経外科	坂本王哉 ㊿	新居浩平 ㊿	井上律郎 ㊿
泌尿器科	平浩志 ㊿	平浩志 ㊿	宮島茂郎 ㊿
眼科	本多博一	高橋理恵	本多博一
耳鼻いんこう科	杉山喜一 ㊿	杉山喜一 ㊿	樋口仁美
放射線科	山本良太郎 ㊿		
救急科	松尾邦浩 ㊿		
麻酔科	平田和彦 ㊿		
病理部	原岡誠司		

(筑紫病院の※印は、循環器内科、内分泌・糖尿病内科、呼吸器内科、消化器内科の代表医長)

教育職員人事（講師以上）

（○内の数字は福大医学部卒業回）[平成 29.4.2 ~ 29.10.1]

区分	所 属	資 格	氏 名	発令日	摘 要
退 職	筑紫脳神経外科	准教授	相川 博	29.9.30	
	放射線科	講 師	藤光律子 ⑧	29.9.30	
採 用	寄付研究連携がん薬物療法研究講座	准教授	中野賢二	29.10.1	
	寄付研究連携応用再生医療開発講座	准教授	坂田直昭	29.10.1	
	寄付研究連携細胞病態解析学講座	准教授	渡辺信和	29.10.1	
昇 格	消化器外科学	准教授	吉田陽一郎	29.10.1	
	腫瘍・血液・感染症内科	准教授	田中俊裕 ⑰	29.10.1	
	腎臓・膠原病内科	准教授	三宅勝久	29.10.1	
	小 児 科	准教授	井上貴仁 ⑮	29.10.1	
	病 理 学	准教授	濱崎 慎 ⑳	29.10.1	
	病 理 学	講 師	濱田義浩 ⑭	29.10.1	
	内分泌・糖尿病内科	講 師	田邊真紀人	29.10.1	
	循環器内科	講 師	栗野孝志 ㉕	29.10.1	
	耳鼻咽喉科	講 師	竹内寅之進	29.10.1	
	病 理 学	講師(4条7項)	林 博之 ㉔	29.10.1	
	心臓・血管内科学	講師(4条7項)	志賀悠平 ㉖	29.10.1	
	眼 科	講師(4条7項)	佐伯有祐	29.10.1	
	形 成 外 科	講師(4条7項)	大山拓人 ㉖	29.10.1	
	心臓血管外科	講師(4条7項)	桑原 豪 ㉗	29.10.1	
	救命救急センター	講師(4条7項)	坂本哲哉	29.10.1	
	腫瘍・血液・感染症内科	講師(4条7項)	佐々木秀法	29.10.1	
呼吸器内科	講師(4条7項)	松本武格 ㉘	29.10.1		
筑紫内分泌・糖尿病内科	講師(4条7項)	阿部 一朗	29.10.1		

編 集 後 記

2017年もあっという間に半年が過ぎ、さあ一夏本番という時の7月5日に福岡・大分両県を九州北部豪雨が襲った。多数の犠牲者と家屋や田畑被災をもたらした。また10月21日には超大型の台風が伊勢湾に上陸し日本列島を縦断した。異常気象である。地球温暖化と言われて久しいが気象異常は悪化の一途を辿っていると思えてならない。その一方で、昨今の若い世代の活躍がめざましい。5月の世界卓球選手権個人でベスト8に入った張本智和選手（14歳）、同大会で史上最年少で女子シングルス優勝の平野美宇選手（16歳）そして将棋プロデビュー後29連勝という快挙を達成した藤井聡太4段（14歳）達である。誠に頼もしく将来が期待される。

そして、医学部同窓会諸氏には朗報がもたらされた。この秋にまさに大型台風が通過する10月22日に行われた福岡大学役職者選挙において同窓の朔 啓二郎 教授（福岡大学医学部心臓・血管内科学）が医学部部長に再選された。なんとも嬉しい限りである。朔 教授には福岡大学医学部をさらなる高みへ牽引していただけるものと確信する。

さて、医学部同窓会会誌2017年秋号は、第36回烏帽子会総会報告に加えて、平成29年度研究奨励賞選考報告がなされ、いずれの論文も甲乙付け難い優秀論文ばかりで、若手の研究者の躍進ぶりが同われ、大変頼もしい。また、各教授陣の主催学会報告も全国学会、国際学会も増え充実ぶりが窺い知れる。また、海外研修報告や留学報告、そして学内行事や同窓会年次行事報告も充実し同窓会諸氏には、福岡大学医学部医学科が成熟しSecond Stageへ突入していると感じていただける内容となっている。是非とも御一読いただき、ご意見を寄せていただきたいものである。

文責 前川 隆文（2回生 広報担当 福岡大学 筑紫病院外科）



第37回
福岡大学

医学祭を終えて

第37回福岡大学医学部医学祭
実行委員会

実行委員長 花岡 勝蔵

本年度11月3日～11月5日に行われました第37回福岡大学医学部医学祭についてご報告致します。昨年度末に現在の5年生から受け継ぐ形で、今年度の医学祭実行委員会は発足しました。4月から本格的に医学祭の準備を始動し、様々な方々にご支援していただき、実行委員会の中で多くの協議をかさねました。実行委員の全員が試験や部活がある中、医学祭のために躊躇せず、時間と労力を割けたのも、代々の先輩方から受け継がれた医学祭の伝統の一部に自身もなりたいという思いと、MM14の同期の仲間達とこの大きなイベントを成し遂げたいという熱い動機があったからです。

当の医学祭はというと、各企画に多くの来場者を迎えることができ、大盛況でした。そしてそれぞれの企画を通して、今年度の医学祭のテーマである「アルコールによる健康障害」について、多くの人に関心を喚起できたのではないかと考えています。

医学祭を終えてまず思ったことは、「やってよかったな」という気持ちの良い達成感でした。平易な表現ではありますが、ストレートな気持ちです。難しい、意図しない場面も数多くありましたが、一生の友である同期と、最後まで協力し合えたことは、かけがえのない素敵な体験となりました。この体験は確実にそれぞれの人生に良い影響を与えると確信しております。

最後になりましたが、多大なご協力を賜りました、医学部長朔啓二郎先生をはじめ、学生部長の小玉正太先生、多くのご助言を頂きました笠健児朗先生、烏帽子会の諸先生方、医学部事務課の皆様、運営にあたりご協賛頂いた皆様、医学祭実行委員会のメンバーに心より御礼申し上げます。これを以て私たちの活動は終了しますが、我々が責任を持って後輩にこの伝統を伝授していく所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。以上で本年度医学祭のご報告を終了致します。



福岡大学医学部同窓会

第37回 烏帽子会総会

開催日 平成30年7月7日 17:00～

会場 ソラリア西鉄ホテル8階

■主幹事21回生 / 副幹事31回生



烏帽子会会報第63号

発行日 平成29年12月1日
発行人 高木 忠博
編集人 小玉 正太

発行所 〒814-0180 福岡市城南区七隈7-45-1
福岡大学医学部同窓会
電話:092-865-6353(直通)
092-801-1011(代表) 内線[3032]
FAX:092-865-9484
E-mail:eboshi@minf.med.fukuoka-u.ac.jp

印刷所 ロータリー印刷株式会社
福岡市中央区長浜2-1-30
電話:092-711-7741
FAX:092-711-7901